

SYLLABUS

2021 (21 期生)



学校法人 後藤学園
藤華医療技術専門学校
理学療法学科

学園建学の理念

建学の精神

広く産業経済界に有為な人材を育成し
個性豊かな子弟を送り出す。

教育方針

形から心を養う実学教育

校 是

礼儀 ・ 感謝 ・ 奉仕

人の生活に寄り添える理学療法士を目指して

理学療法とは、身体に障がいのある方が、その人らしく主体的な生活を営めるよう、いろいろな職種の方と協力して、さまざまな方面から援助を行う国家資格です。

本校への入学は理学療法士になるための入口です。ここで皆さんはいろいろな経験と確かな知識・技術を習得し、3年後の国家試験の望むことになります。決して楽な路ではありませんが、将来かわりを持つ対象者のために、目標に向かい頑張ってもらいたいと思います。3年間の学校生活を送るにあたり、以下の点を心掛けてください。

1. あきらめる前に、とことん行動！

3年間の学習は、内容・時間ともに多く、くじけそうになることも多いと思います。あきらめる前に一歩踏み止まり考えてください。わからないところを一つ一つ丹念に調べていけば、案外すんなり頭に入ってきます。学習の中身は人の体の働きや病気についてです。自分の体に置き換えて考えるとうわかりやすいのです。それでもわからなければ、教員に聞いてください。

2. 日々充実。毎日を大切にする！

高等学校までは一夜漬けでできた勉強ですが、本校の勉強は範囲が広いので、一夜漬けが効きません。また、どこにヤマを張ってよいやらわからなくなってしまうと思います。学習に近道はありません。毎日こつこつ積み重ねていくしかないのです。昔話の「アリとキリギリス」ではありませんが、毎日の積み重ねが必ず、効果として現れるのです。

3. 仲間をつくる

どんなに苦しくても仲間がいれば、支えあえる。人間、いや動物とはそうした習性をもっているのです。ともに支えあえる仲間がいてこそ頑張れる。この学校で多くの仲間をつくってください。一生の財産になります。

4. 自ら答えを導き出す

高等学校までは「正解」を求めることが求められてきました。しかし、社会では「正解」はなく、「その場でベストな答えを導き出す」能力が要求されます。答えのみを追い求めるのではなく、自ら考え、調べ、相談し答えを導き出せるよう、努力してください。

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

理学療法学科は、心身に障害を有する人や障害の発生が予測される人を対象として、人々の生活復権の援助を担う専門分野です。理学療法士の存在意義は対象者の多様なニーズに理学療法技術を用いて応えることにあります。また、対象者はもちろんのこと、他の医療・保健・福祉に携わる職種の方々とのディスカッションやコミュニケーションを通して、チームアプローチ(協働)が重要になります。

それゆえ理学療法士には、礼儀、感謝、ならびに奉仕の精神、科学的探求心、責任感および主体的な問題解決能力が求められます。

そこで、社会に貢献できる理学療法士を育てるため、本学科では次のような人物を求めています。

- (1) 人が好きで、人を思いやることができ、人の援助をしたい人物
- (2) 医学や医療・保健・福祉分野の関心度が高く、特に理学療法分野で貢献したいという目的意識と情熱を持っている人物
- (3) 学習意欲ならびにチャレンジ精神が旺盛で、主体的に学習する意志のある人物
- (4) コミュニケーション能力を高めるよう入学後も継続して自己研鑽する人

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

<基本理念>

本校における理学療法士養成の理念は、基盤となる知識・技術および態度を学び、保健・医療・福祉との関連性を深め、豊かな教養と人間性を養い、地域や広く社会に貢献し生涯に渡り自己を啓発できる人材を育成することにある。

<教育目的>

理学療法士に必要な知識・技術および態度を習得させるとともに豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉の発展に貢献できる理学療法士を育成する。

<教育目標>

- (1) 人間を全人的(身体的・精神的・社会的)にとらえる能力を養う。
- (2) 人間の健康と生活を自然・社会・文化的環境との相互作用等の観点から理解する能力を養う。
- (3) 人の多様な価値観を認識し専門職人としての共感的態度および倫理に基づいた理学療法を実践するとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。
- (4) 対象者の病期に応じ、適切な理学療法を実践するための基礎的能力を養う。
- (5) 保健・医療・福祉の諸制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践する能力を養う。

＜理学療法カリキュラムの概要＞

近年、保健・医療・福祉はめまぐるしく変化している。また、少子高齢社会の今、さらに変化は加速すると考えられる。そこでこれらの対応し、幅広い視点で他職種と協業し、リハビリテーションを行う理学療法士を育成するためにカリキュラムを一部変更することとした。最終目標は本校では豊かな人間性の育成、対象者に誠心誠意かわり理学療法を实践できる能力の開発に重点を置くことであり、これには変わりはないが、より実践できるようカリキュラムを工夫した。詳細は以下の通りである。

基礎分野では(1)科学的・論理的思考力の養成、(2)人間性を高め、自由で主体的な判断と行動が行える、に加え(3)生命倫理、人間の尊厳の理解を深めることを目的に「倫理学」を正式な科目として加えることとした。

専門基礎分野では(1)理学療法士として必要な人体の構造・機能と心身の発達の理解、(2)疾病および障害の知識と回復過程の理解、(3)地域・社会へ貢献出来るよう、理学療法士の役割を体験し観察力と行動力を養うことを目的に構成。特に「解剖学・運動学・生理学」を系統的に学べるよう細分化し、再構成した。

専門分野では基礎理学療法学を学習内容に応じて再分化、評価学の時間を大幅増加、治療学を疾患ごとに細分化した。また論理的思考を身につけることを目的に研究法を加えることとした。そして、1 年次から体系的に臨床で学ぶ機会を提供するために体験実習、短期実習を加え、医療機関にとらわれず、地域領域・発達領域・介護保険領域と幅広い施設にて臨床実習を行うこととした。

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

理学療法学科の教育理念に基づき、所定の単位を修得し、かつ、次の能力を身につけた学生は、卒業が認定される。

1. 人の尊厳と多様な価値観を理解し、高い倫理観をもって健康を支援していく能力を有している。
2. 理学療法士として必要な専門的知識と技術を修得し、人の身体機能上の問題に対して、根拠に基づく論理的思考をもって解決する能力を有している。
3. 人を支援する専門職の一員として自己の責任を自覚し、多職種間の信頼関係を構築し、協働する能力を有している。
4. 国際的な広い視野から問題を捉え、解決する意欲と能力を有している。
5. 知識と技術の向上のために、自ら学び、鍛錬する意欲と能力を有している。
6. 医学の進歩と社会システムの複雑化を見据え、自己の専門性を発揮して地域社会に貢献する意欲と能力を有している。
7. 臨床における高い問題解決能力と人間性を備え、さらに関連専門職種との連携と統合を推進し、多様な課題を発見・抽出・分析し解決する高い問題解決能力と人間性および協働力を備えている。

学年別指導目標

年	1 年	2 年	3 年
認知領域	1. 基礎科目や専門科目の学習を通してリハビリテーションの意味を理解し、リハビリテーション医学の考え方を明確にすることができる。 1) 対象者を全人的(身体・精神・社会)に捉えることの大切さを感じることができる。 2) 理学療法、作業療法について自己の考えを持てる。 3) 専門職としての意識付けを高め、主体的に学習することの大切さを感じることができる。 2. 学内期末試験の際に支障とならないよう、必要な知識を身に付けることができる。	1. 既習の知識を専門科目での学習や実習において統合し、リハビリテーションの根拠を明確にすることができる。 1) 対象者を全人的(身体・精神・社会)に捉えることができる。 2) 専門、関連分野の知識を活用し、対象者に適した理学療法を考えることができる。 3) 専門職としての更なる意識付けを図り、主体的に学習することができる。 2. 三年次での国家試験合格並びに長期実習に対応できるだけの知識を身に付けることができる。	1. 既習の知識、技術を統合し、実際に対象者を通して、その能力を十分に発揮し、理学療法の考え方を理解する。 2. 対象者を全人(身体・精神・社会)的に捉え述べる。 3. 専門、関連分野の知識を活用し、対象者に適した運動療法を考え、適切な運動療法を述べる。 4. 専門職としての自覚を持ち、理学療法士になる為に必要な知識を主体的に学習し応用する。 5. 国家試験合格のための知識を身につける。
情意領域	1. 藤華医療技術専門学校の学生としての身分を自覚し、責任ある態度をとることができる。 2. 対象者の尊厳を守り、その人の価値観を尊重することができる。 3. 自己の行動を振り返り正しく評価し、自己を高める姿勢を身に付けることができる。 4. 実習を通して理学療法・作業療法に対する考えを深めることができる。	1. 理学療法学科の学生として責任ある態度をとることができる。 2. 対象者の尊厳を守り、その人の価値観を尊重することができる。 3. 自己の行動を振り返り自己を高める姿勢を身に付けることができる。 4. 実習を通して理学療法に対する考えを深めることができる。	1. 専門職および社会人として責任ある態度を取り、周囲に配慮する。 2. 対象者の尊厳を守り、その人の価値観を尊重し、協調する。 3. 自己の行動を振り返り、自己を高める姿勢を身につけ実践を行う。 4. 長期実習を通して理学療法に対する考えを深め、自己洞察を行い、自己を高める努力を行う。
精神運動領域	1. 障害を負っている対象者を主体的に捉え、「どのような援助方法が考えられるか」という『思考』をすることができる。 2. 自己の弱点を学習面、精神面の両面から考え、克服する術を考え、実践することができる。	1. 対象者の身体、精神、社会面を総合的に理解し、自立と回復の援助に向けた指導、援助を実践することができる。 2. 対象者の評価結果やニーズから適切なゴール設定を行い、治療計画を作成できる。またその目的を論理的に説明できる。 3. 必要に応じて臨機応変に治療計画を修正することができる。 4. 学内で学んだ知識を臨床の場で応用し問題解決を図ることができる。	1. 対象者の身体・精神・社会面を総合的に理解し、自立を目指し、回復の援助に向け指導を実践する。 2. 対象者の評価結果やニーズから身体・精神状況を細かく感じ取り適切な対応ができるように工夫する。 3. 必要に応じて臨機応変に訓練計画を追加・修正し実践する。 4. 専門職としてだけでなく、社会人として適切な対応を実践する。

科 目			講 義	実 習	時間数						
					1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	計
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	2		30						30
		行動科学	1		15						15
		人間関係学	1		15						15
		倫理学	1		15						15
		教育社会学	2		30						30
		社会福祉学	1		15						15
		生体工学	1		15						15
		統計学	1			15					15
		情報科学	1		30						30
		保健体育		1	30						30
		英語	1		15						15
		医学英語	1			15					15
基礎 小計			14		210	30	0	0	0	0	240
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2		60						60
		解剖学Ⅱ	1	1		60					60
		生理学Ⅰ	2		60						60
		生理学Ⅱ	1	1		60					60
		運動学Ⅰ	1		30						30
		運動学Ⅱ	1			30					30
		運動学Ⅲ		1			30				30
		人間発達学	1		30						30
		小計	12		180	150	30	0	0	0	360
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学概論	1			30					30
		臨床心理学	1				30				30
		基礎医学概論Ⅰ	1		30						30
		基礎医学概論Ⅱ	1			30					30
		基礎医学概論Ⅲ	1				30				30
		内科学	1					40			40
		老年学	1			20					20
		整形外科学	2				30	30			60
		神経内科学・脳外科学	2				30	30			60
		精神医学	2				60				60
		小児科学	1					30			30
		リハビリテーション医学	1			30					30
	小計	15		30	110	180	130	0	0	450	
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		15						15
保健医療福祉制度論		2			30					30	

		公衆衛生学	1		15						15
		小計	4		30	30	0	0	0	0	60
専門基礎 小計			30		240	290	210	130	0	0	870
科 目			講義	実習	時間数						
					1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	計
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	1		30						30
		理学療法概論Ⅱ	1							30	30
		理学療法研究法	1					15			15
		卒業研究		1						30	30
		理学療法セミナーⅠ		2	<u>15</u>	<u>15</u>					30
		理学療法セミナーⅡ		2			<u>15</u>	<u>15</u>			30
		理学療法セミナーⅢ		2						<u>30</u>	30
		病態運動学	2				<u>30</u>	<u>30</u>			60
		小計	12		45	15	45	60		90	255
	理学療法管理学	理学療法管理学	2							30	30
		小計	2							30	30
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1		45						45
		理学療法評価学Ⅱ	1	1		60					60
		理学療法評価学Ⅲ	1	1			60				60
		理学療法評価学Ⅳ	1					45			45
		臨床推論学Ⅰ	1				15				15
		臨床推論学Ⅱ	1					30			30
		小計	8		45	60	75	75	0	0	255
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	1	1	15	45					60
		運動療法学Ⅱ		1			30				30
		成人神経系理学療法学Ⅰ	2				60				60
		成人神経系理学療法学Ⅱ	2					60			60
		小児神経系理学療法学	2					60			60
		骨・関節系理学療法学	2				30	30			60
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1				15				15
		内部障害系理学療法学Ⅱ		1				30			30
		物理療法学	1	1		30	30				60
		義肢装具学総論	1			30					30
		義肢装具学各論	1				30				30
		日常生活活動学	1			30					30
		日常生活活動学演習		2			30	30			60
		小計	20		15	135	225	210	0	0	585
	地域理学療法学	地域理学療法学	1					15			15
		生活環境学	2			30					30
		小計	3		0	30	0	15	0	0	45

臨床実習	見学実習	1	40					40	
	検査・測定実習	2	80					80	
	評価実習	3			120			120	
	地域実習	1					40	40	
	総合臨床実習Ⅰ	8				320		320	
	総合臨床実習Ⅱ	8				320		320	
	小計	23	40	80	120	640	40	920	
専門 小計		68	105	280	425	480	640	160	2090
時間数 計（前期・後期別）			555	600	635	610	640	160	3200
時間数 計（学年別）			1155	1245		800		3200	

基礎分野

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義
科目名	心理学			
担当教員	麻生良太			

1. 講義概要

社会人として、また医療関係業務に携わる者として、自己や他者の心理を理解し、職務に臨むことは重要である。この講義では、臨床現場で対象者の心理を理解するための基礎知識を学習する。

2. 一般目標

心理学とは人間の行動に関する科学である。本講義ではライフスタイル理論を基礎に発達期の特徴とそれぞれの時期に見られやすい障害や臨床的問題を中心に医療・福祉に携わるものに必要な心理学の基礎を理解する。

3. 評価方法

筆記試験 80%・レポート 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

あなたのこころを科学する Ver.3

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	オリエンテーション、心理学とは
2	心理学の主な歴史と著名な研究者
3	心理学の研究法とその方向性
4	学習理論 (1)
5	学習理論 (2)、発達 (1)
6	発達 (2)
7	発達 (3)
8	発達 (4)、パーソナリティ理論 (1)
9	パーソナリティ理論 (2)
10	パーソナリティ理論 (3)
11	パーソナリティ理論 (3)
12	集団と個人
13	適応の心理学 (1)
14	適応の心理学 (2)
15	臨床心理学の基礎
16	テスト

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 講義
科目名	行動科学			
担当教員	麻生良太			

1. 講義概要

社会学・人類学・教育学等、学際的特質を有する行動科学についてその中心領域である心理学の視座から人間行動の生起、変容のメカニズムを講義する。

2. 一般目標

- 1) 人間と人間行動について行動心理学、人間性心理学の立場から分析し、基本的理解を図る。
- 2) 集団行動、対人関係について集団力学の研究成果を拠り所に考察し、基本的理解を図る。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	行動科学の定義と領域
2	調査法と実験法
3	集団思考
4	集団決定と個人決定
5	援助行動, ソーシャルサポート
6	ソーシャルサポートとストレス
7	社会的行動, リーダーシップ
8	対人関係の基本軸、バランス理論と討論法
9	テスト

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 講義
科目名	人間関係学			
担当教員	麻生良太			

1. 講義概要

医療従事者にとって人間関係の望ましい在り方について理解を深め、医療従事者としての人間的成長をはかる。

2. 一般目標

人間関係についての基礎知識とコミュニケーションに関する理解を深め、健康な人間関係を成立する構成要素および集団における交流の在り方を理解する。また、実際の人間関係の改善・発展の技法を身に付ける事を目標とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	対人認知(1)
2	対人認知(2)
3	対人魅力
4	対人関係の展開
5	対人コミュニケーション(1)
6	対人コミュニケーション(2)
7	対人的影響(1)
8	対人的影響(2)
9	テスト

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 講義
科目名	倫理学			
担当教員	吉田 慧日			

1. 講義概要

倫理学とはあるべき人間関係と行為を問う学問である。本講義では医療倫理や生命倫理学の分野で近年問題となっている事項について問題の所在や対処方法を考える。

2. 一般目標

近年問題となっている様々なテーマ(遺伝子治療、脳死、臓器移植、延命治療、患者の権利など)を題材に事実・状況を理解した上で問題の本質を適確に掴むこと。またそれについての自分の考えを他者に適切に伝える為に必要な筋道の通った文章力・表現力を養うことを目標とする。

3. 評価方法

レポート 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	オリエンテーション 倫理学とは
2	倫理と人間作り
3	「入学して」小論文の指導、新聞切り抜き感想文作成。
4	漢字力テスト 感想文の自己添削
5	コミュニケーション基礎 感想文の自己添削
6	生命倫理について 感想文の自己添削
7	出生前診断と生命倫理
8	小論文、倫理定義のまとめ

基本情報	1 年前期	基礎分野	2 単位 (30 時間)	授業方法: 講義
科目名	教育社会学			
担当教員	溝口 泰章			

1. 講義概要

この講義では、ひとが互いにより豊かな生涯をおくることができるよう、人間形成の過程について概説していく。

2. 一般目標

わたしたちは生物の一種である「ヒト」として生まれます。「ヒト」から「人」へ、さらに「人間」へ、ひとの成長・発達の手みを、他者・家族・仲間・学校と教師・職場と同僚・地域と住民・国家と国民・地球市民と国際社会・地域や地球の自然環境・社会規範や文化やマスメディア等の社会的条件など、広い意味の環境との関係から探り、自分自身を含め、人間として成長・発達するとはどういうことかについて考えます。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	社会学の紹介
2	教育と社会学
3	社会の変遷
4	社会構造の変革
5	現代社会の抱える諸問題
6	社会集団
7	社会集団 ～家族～
8	家族と社会化日本人のパーソナリティ
9	社会集団 ～地域社会～
10	戦後日本の地域開発
11	社会集団 ～職場集団～
12	社会集団と社会問題
13	パーソナリティの形成メカニズム
14	大衆社会状況下の人間形成
15	社会学の方法 社会調査

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法:講義
科目名	社会福祉学			
担当教員	田嶋 昭二			

1. 講義概要

社会福祉の原理や社会福祉の現状と問題点について学習する

2. 一般目標

「福祉とは」なにか。日本における社会福祉を歴史からひも解くとともに、社会保障制度の現状や課題について概説し、対象者に有効かつ適切な援助を行なうための社会福祉の知識を身につける。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

四訂版 社会福祉概論 その基礎学習のために 社会福祉小六法

介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック

系統看護学講座 専門基礎 社会保障 社会福祉

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	社会保障制度と社会福祉
2	社会福祉の法制度・福祉 6 法
3	現代社会の変化(人口・地域社会・家族・経済・雇用状況)
4	社会保障・社会福祉の動向
5	医療保障
6	介護保障・年金保険制度
7	所得保障と公的扶助
8	社会福祉の分野とサービス

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 講義
科目名	生体工学			
担当教員	池内 秀隆			

1. 講義概要

理学療法・作業療法の実践にあたり、自らが行う手技や治療について力学などを用い、理論的な説明が可能になることを狙いとする。

2. 一般目標

- 1) 基礎的な力学の知識を有し、取り扱いができること。
- 2) 患者に適した介助方法を選択し、その説明ができること。
- 3) 介助動作の力学的な意味づけを説明できること。

3. 評価方法

筆記試験 80%・課題レポート 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

新イラストによる安全な動作介助の手引き 第 3 版

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	動作介助の意義と目的
2	介助法を理解するための基礎知識(1)
3	介助法を理解するための基礎知識(2)
4	障害別介助の特徴と留意点
5	介助の実際(座位・立位)
6	介助の実際(移乗・リフト)
7	介助の実際(車いす・自動車)
8	介助の実際(歩行・階段昇降)

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 講義
科目名	統計学			
担当教員	麻生 良太			

1. 講義概要

リハビリの現場で利用できる統計学の基礎について講義する。

2. 一般目標

確率や統計の基礎を学ぶことで、医学分野におけるデータの意味を適切に把握し科学的な論理と思考の基本を学ぶことを目標とする。

3. 評価方法

筆記試験 80%・レポート 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	Excel で使われる基本的な用語と基本的な操作について
2	Excel でのグラフ(横棒, 折れ線, データチャート)の作成方法について
3	度数分布表, ヒストグラムの作成方法
4	平均値, 中央値, 最頻値について
5	偏差値の算出
6	相関図の意味と作成法 相関関係の意味と求め方
7	母集団と標本の違い、標本調査について
8	信頼区間による平均値の範囲の推定位について
9	テスト

基本情報	1 年前期	基礎分野	2 単位 (30 時間)	授業方法:講義
科目名	情報科学			
担当教員	吉岡 孝			

1. 講義概要

電子カルテやインターネットを利用した遠隔医療など、医療環境は変革している。この単元ではコンピューターによる情報処理の実際を学ぶことによって情報リテラシーの育成を狙いとする。

2. 一般目標

情報科学の基礎理論と、コンピューターによる基本的な操作能力を習得する。

3. 評価方法

筆記試験 80%・課題レポート 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

系統別看護学講座 看護情報学

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	情報と情報処理
2	情報化社会の光と影
3	コンピューターの概要・仕組み
4	Windows の操作 (1)
5	Windows の操作 (2)
6	Word・Excel の利用法, 演習 (1)
7	Word・Excel の利用法, 演習 (2)
8	Word・Excel の利用法, 演習 (3)
9	表と式, グラフの作成
10	ホームページの見方とメールの使い方
11	情報と倫理・個人情報の保護
12	文献検索・アクセス
13	データ収集と調査手法
14	プレゼンテーション
15	リハビリテーションにおける情報システム

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義・実技
科目名	保健体育			
担当教員	川本紘美 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	菅原志津穂	理学療法士として 16 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		

1. 講義概要

ピラティスというドイツ生まれのボディワークは、体操により機能的な動きと美しい姿勢の獲得が可能となる。

姿勢は日常の健康を映す鏡であり、不良姿勢は印象などの見た目が悪いだけでなく、腰痛など種々の不定愁訴に繋がり、痛みや違和感による QOL の低下やスポーツパフォーマンスの低下を引き起こす。この授業では、ピラティスを実践することで、臨床に必要な知識や機能的な身体の動きを学ぶ。

2. 一般目標

身体の動作法を獲得し、自身で実践できるようになる。

3. 評価方法

筆記試験 60%・実技試験 40%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	ピラティス概論
2	正しい姿勢とは
3	姿勢の診かた
4	ショルダーブリッジの運動学
5	筋肉の働き(体幹)
6	座位・立位のエクササイズ
7	筋肉の働き(下肢)
8	ピラティスエクササイズ実習
9	筋肉の働き(上肢)
10	ピラティスエクササイズ実習
11	プランク・四つ這い
12	ピラティスエクササイズ実習
13	異常姿勢の見分け方
14	栄養補給と運動
15	インターバルトレーニング

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法:講義
科目名	英語			
担当教員	澤田 明子			

1. 講義概要

英語の基礎学力を確実に身につけ、実際の医療現場で英語を用いてコミュニケーションができる力を養う。

2. 一般目標

日常生活に必要なコミュニケーション能力の育成のため話す、聞く演習を通して、生きた英語を学び言語を実際に運用する能力を養う。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

A NEW LOOK AT WORLD

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	Green School
2	How to Measure the Size of the Earth
3	How to Live to Be 100
4	Solo Free Climbing
5	Caber Tossing
6	Around the World in 518 Days
7	Happy Endings
8	Zahra's Paradise

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位(15 時間)	授業方法:講義・演習
科目名	医学英語			
担当教員	澤田 明子			

1. 講義概要

読解力および表現力を養うとともに医療の現場に必要な英語力を養う。

2. 一般目標

医療の現場に必要な英語力及び基礎知識を身につけ、それを運用していく能力の育成を目的とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

福祉の英語 English for Social Welfare

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	日本人の福祉の理解
2	障害者にとって働く意義とは
3	老人の孤独
4	IT と福祉の分野・役割
5	寝たきりを防ぐにはどうしたらよいか
6	介護の仕事と外国人
7	ロボットペットが独居老人の命を守る
8	NPO は福祉のどんな分野で活躍しているでしょう

専門基礎分野

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法: 講義
科目名	解剖学 I			
担当教員	北村裕和			
	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
1. 講義概要				
解剖学は、理学療法士作業療法士を目指す者にとって人体を構成する諸器官の正常な形態を系統だて学ぶ最も重要な専門基礎科目である。				
2. 一般目標(GIO)				
人体の発生から組織学、骨格、関節と靱帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系と概説し人体の諸器官の精巧な形態と多様性に基づく基本的な機能を学習していく。				
3. 行動目標(SBO)				
循環器、呼吸器、消化器等の構造を理解し説明することができる。				
骨、関節、靱帯の名称と関連について説明することができる。				
4. 評価方法				
筆記試験 80%・レポート 20%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等				
解剖学(標準理学療法・作業療法学) 肉単 語源から覚える英単語集				
6. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	解剖学総論 人体の構成		16	内臓学 感覚器(2)
2	解剖学総論 人体の構成		17	骨学総論
3	解剖学総論 解剖学用語		18	骨学各論(1)
4	発生学 系統発生		19	骨学各論(2)
5	内臓学 循環器(1)		20	関節・靱帯学総論
6	内臓学 循環器(2)		21	関節・靱帯学総論
7	内臓学 循環器(3)		22	関節・靱帯学各論 頭頸部
8	内臓学 循環器(4)		23	関節・靱帯学各論 脊柱
9	内臓学 消化器学(1)		24	関節・靱帯学各論 上肢帯、肩、体幹
10	内臓学 消化器学(2)		25	関節・靱帯学各論 肘関節
11	内臓学 呼吸器系		26	関節・靱帯学各論 肘・前腕
12	内臓学 内分泌系		27	関節・靱帯学各論 手関節・手指
13	内臓学 泌尿器系		28	関節・靱帯学各論 骨盤・股関節
14	内臓学生殖器		29	関節・靱帯学各論 膝関節
15	内臓学 感覚器(1)		30	関節・靱帯学各論 下腿、足関節
				テスト

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法: 講義
科目名	解剖学Ⅱ			
担当教員	藤倉義久			
	北村裕和			
	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行っている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		

1. 講義概要

骨格をなすそれぞれの骨、その構造を模型を通して理解し、全身の構成を学ぶ。
解剖見学実習を通して、人体の構造と機能を概観する。
御献体の意義と倫理観を養う。

2. 一般目標 (GIO)

全身の骨格の形態と名称を理解する。
人体の組織学、骨格、関節と靱帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系を御献体を見て触れて理解を深める。

3. 行動目標 (SBO)

四肢体幹の筋名、起始停止走行を理解し作用を述べることができる。
中枢神経、末梢神経の構造を理解し説明することができる。

4. 評価方法

筆記試験 80%・レポート 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5. テキスト・参考書等

解剖学 (標準理学療法・作業療法学) 肉単 語源から覚える英単語集

6. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	解剖学総論 筋学総論1	16	筋・神経(筋の支配神経)
2	筋学総論2	17	神経系 各論 中枢神経1
3	筋学総論3	18	神経系 各論 中枢神経2
4	筋学総論4	19	神経系 各論 中枢神経3
5	神経系総論 1	20	神経系 各論 中枢神経4
6	神経系総論 2	21	神経系 各論 末梢神経1
7	筋学 各論 下肢帯1	22	神経系 各論 末梢神経2
8	筋学 各論 下肢帯2	23	神経系 各論 末梢神経3
9	筋学 各論 下肢帯3	24	神経系 各論 末梢神経4
10	筋学 各論 体幹 1	25	筋・筋膜 アナトミートレイン
11	筋学 各論 体幹 2	26	アナトミートレインを応用した肩関節の治療
12	筋学 各論 体幹 3	27	アナトミートレインを応用した腰痛の治療
13	筋学 全体復習1	28	アナトミートレインを用いた自律神経と運動療法
14	筋学 全体復習2	29	解剖見学実習オリエンテーション
15	神経系各論 神経伝導路	30	解剖見学実習

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法: 講義
科目名	生理学 I			
担当教員	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		

1. 講義概要

生理学では人体の諸構造の持つ機能とそれらの結びつきを学ぶ。

2. 一般目標(GIO)

生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。

3. 行動目標(SBO)

植物性生理学の基礎知識を修得し、生命現象と照らし合わせて説明できる。

4. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5. テキスト・参考書等

シンプル生理学 第7版

6. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	生理学総論	16	排便機構
2	細胞(DNAを中心に)	17	血液の機能
3	静止膜電位	18	免疫機構
4	活動電位	19	心臓と循環1
5	興奮の伝導	20	心臓と循環2
6	情報の伝達	21	末梢循環と調節
7	中枢神経総論	22	体温調節
8	視床下部と辺縁系	23	呼吸機能1
9	自律神経・ホルモン総論	24	呼吸機能2
10	下垂体	25	腎機能1
11	甲状腺・副腎	26	腎機能2
12	膵臓・性腺	27	排尿機構
13	栄養と代謝	28	体液とその調節1
14	消化とその調節	29	体液とその調節2
15	消化と吸収	30	試験と解説

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法: 講義・実習
科目名	生理学Ⅱ			
担当教員	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		

1. 講義概要

講義で学んだ内容について、実習を通して理解を深める。

2. 一般目標

生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。加えて、実習を通して人体の仕組みを理解することができる。

3. 行動目標(SBO)

動物性生理学の基礎知識を修得し、ヒトの行動原理と照らし合わせて説明できる。

実習を通してヒトの体の仕組みを体系的立てて説明できる。

4. 評価方法

筆記試験 50%レポート 30%・発表会 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

5. テキスト・参考書等

シンプル生理学・実習書

6. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	筋肉の分類と構造 1	16	視覚
2	筋肉の分類と構造 2	17	嗅覚・味覚
3	骨格筋の収縮機構 1	18	実習 1
4	骨格筋の収縮機構 2	19	実習 2
5	筋紡錘とゴルジ腱器官	20	実習 3
6	脊髄反射・姿勢反射	21	実習 4
7	大脳皮質(機能局在)	22	実習 5
8	大脳と運動	23	実習 6
9	大脳基底核と運動	24	実習 7
10	小脳と運動	25	実習 8
11	感覚総論	26	実習 9
12	体性感覚・内臓感覚	27	実習 10
13	深部感覚	28	実習 11
14	聴覚	29	実習 12
15	前庭感覚	30	テストと解説

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法:講義・演習																																		
科目名	運動学 I																																					
担当教員	福田 旨宏	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。																																				
1. 講義概要 ひとの行動・動作を”運動”という視点で観察し説明するための知識を習得する。 2. 到達目標 (1)運動を説明するのに必要な専門用語を習得する。 (2)運動の観察に必要な力学の知識を身に付ける。 (3)各関節の運動に関与する筋の知識を習得する。 3. 成績評価方法 筆記試験・提出課題(定期試験 70%、小テスト 20%、課題10%) 60 点以上を合格とする ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 4. テキスト・参考書等 運動学、運動学実習(中山書店)、カラースケッチ解剖学 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>生体力学(1)</td></tr><tr><td>2</td><td>生体力学(2)</td></tr><tr><td>3</td><td>上肢帯と肩関節での上腕の運動</td></tr><tr><td>4</td><td>肘関節と前腕の運動</td></tr><tr><td>5</td><td>手関節と手の運動</td></tr><tr><td>6</td><td>下肢帯と股関節の運動学</td></tr><tr><td>7</td><td>膝関節の運動学</td></tr><tr><td>8</td><td>足の関節と足部の運動学</td></tr><tr><td>9</td><td>体幹の運動学(1)</td></tr><tr><td>10</td><td>体幹の運動学(2)、顔面と頭部の運動学</td></tr><tr><td>11</td><td>姿勢</td></tr><tr><td>12</td><td>歩行(1)</td></tr><tr><td>13</td><td>歩行(2)</td></tr><tr><td>14</td><td>呼吸・循環・代謝と運動</td></tr><tr><td>15</td><td>運動学習</td></tr><tr><td>16</td><td>前期試験</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	生体力学(1)	2	生体力学(2)	3	上肢帯と肩関節での上腕の運動	4	肘関節と前腕の運動	5	手関節と手の運動	6	下肢帯と股関節の運動学	7	膝関節の運動学	8	足の関節と足部の運動学	9	体幹の運動学(1)	10	体幹の運動学(2)、顔面と頭部の運動学	11	姿勢	12	歩行(1)	13	歩行(2)	14	呼吸・循環・代謝と運動	15	運動学習	16	前期試験
コマ	教授内容																																					
1	生体力学(1)																																					
2	生体力学(2)																																					
3	上肢帯と肩関節での上腕の運動																																					
4	肘関節と前腕の運動																																					
5	手関節と手の運動																																					
6	下肢帯と股関節の運動学																																					
7	膝関節の運動学																																					
8	足の関節と足部の運動学																																					
9	体幹の運動学(1)																																					
10	体幹の運動学(2)、顔面と頭部の運動学																																					
11	姿勢																																					
12	歩行(1)																																					
13	歩行(2)																																					
14	呼吸・循環・代謝と運動																																					
15	運動学習																																					
16	前期試験																																					

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法:講義・演習
科目名	運動学Ⅱ			
担当教員	福田 旨宏	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
1. 講義概要 ひとの行動・動作を”運動”という視点で観察し説明するための知識を習得する。				
2. 一般目標 (1)運動を説明するのに必要な専門用語を習得する。 (2)運動の観察に必要な力学の知識を身に付ける。 (3)各関節の運動に関与する筋の知識を習得する。				
3. 評価方法 筆記試験・提出課題(定期試験 70%、小テスト 20%、課題10%) ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 基礎運動学(医歯薬出版)、運動学、運動学実習(中山書店)、カラースケッチ解剖学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	生体力学(1)			
2	生体力学(2)			
3	上肢帯と肩関節での上腕の運動			
4	肘関節と前腕の運動			
5	手関節と手の運動			
6	下肢帯と股関節の運動学			
7	膝関節の運動学			
8	足の関節と足部の運動学			
9	体幹の運動学(1)			
10	体幹の運動学(2)、顔面と頭部の運動学			
11	姿勢			
12	歩行(1)			
13	歩行(2)			
14	呼吸・循環・代謝と運動			
15	運動学習			
16	後期試験			

基本情報	2年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法:講義、グループワーク、 ペアワーク、レポート作成
科目名	運動学Ⅲ			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
1. 講義概要				
運動学Ⅰ、Ⅱを基礎として、これをさらに発展させた内容である。				
理学療法では、正常や異常の運動・動作を見出し適切な介入を行い障害の軽減、QOL 向上を図る。そのためには、正常や異常の運動・動作のメカニズムの理解が不可欠である。また、その内容は理学療法評価・治療プログラム立案の基礎となる。				
本科目では、理学療法の対象である正常な基本動作、日常生活動作(一部、異常動作)を運動学の視点から分析、解釈し説明できることを目指す。				
2. 一般目標				
理学療法の対象である正常な基本動作、日常生活動作(一部、異常動作)を運動学の視点から分析、解釈し説明できる。				
3. 評価方法				
小テスト(60%) 課題(10%) 期末テスト(30%)				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
エッセンシャルキネシオロジー 第 2 版、動作分析 臨床活用講座、運動学テキスト(南江堂)				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	第 1 章 キネシオロジーの基本原理			
2	第 2 章 関節の構造と機能 第 3 章 骨格筋の構造と機能			
3	第 4 章 肩複合体の構造と機能			
4	第 5 章 肘・前腕複合体の構造と機能			
5	第 6 章 手関節の構造と機能			
6	第 7 章 手の構造と機能			
7	第 8 章 脊柱の構造と機能(3)			
8	第 9 章 股関節の構造と機能(3)			
9	第 10 章 膝関節の構造と機能(3)			
10	第 11 章 足関節と足部の構造と機能(3)			
11	第 12 章 歩行の基礎知識			
12	第 13 章 咀嚼と換気のキネシオロジー			
13	基本動作(1)			
14	基本動作(2)			
15	基本動作(3)			

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義
科目名	人間発達学			
担当教員	池邊 修二			

1. 講義概要

人間を身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえ、発達という観点から理解する。

2. 一般目標

発達理論をふまえ、乳幼児期の特徴を中心に知能・精神面・運動・身体面、そして社会性の面などの基本的かつ実践的な知識の習得を目標とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

生涯人間発達学

運動発達と反射

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	人間発達学とは何か(1)
2	人間発達学とは何か(2)
3	出生前発達
4	乳児発達(1)
5	乳児発達(2)
6	原始反射(1)
7	原始反射(2)
8	立ち直り反射
9	幼児発達(1)
10	幼児発達(2)
11	環境と人間
12	思春期発達
13	成年期発達
14	老年期発達(1)
15	老年期発達(2)

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位(30 時間)	授業方法:講義
科目名	病理学概論			
担当教員	秋月 真一郎			

1. 講義概要

病理学概論では疾病において出現する形態と機能及び代謝の異常について学習する。

2. 一般目標

進行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、感染症 奇形といった基本病変の定義や病態を理解する。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	病因、奇形
2	奇形、代謝障害
3	代謝障害
4	循環障害
5	循環障害
6	炎症
7	炎症
8	腫瘍
9	腫瘍
10	循環器
11	血液、呼吸器
12	呼吸器、消化器
13	肝、腎、生殖器
14	内分泌
15	内分泌、脳
16	テスト

基本情報	2年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義・演習
科目名	臨床心理学			
担当教員	長谷川 美枝子			

1. 講義概要

臨床心理学とPT・OTの関わり、および最新の治療方法や病理学的な知見を学ぶ。

2. 一般目標

臨床心理学総論を概説した後、障害理解の基礎として主要な人格理論を教授する。また、障害理解の手段としての心理検査や心理療法などの援助技法について講義する。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

リハビリテーション患者の心理とケア

臨床心理学のすべてがわかる本

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	臨床心理学とは
2	心理学の基礎知識(1)
3	心理学の基礎知識(2)
4	臨床心理学的援助の対象(1)
5	臨床心理学的援助の対象(2)
6	臨床心理学的援助の対象(3)
7	臨床心理学的援助の方法(1)
8	臨床心理学的援助の方法(2)
9	臨床心理学的援助の方法(3)
10	様々な心理療法と技法(1)
11	様々な心理療法と技法(2)
12	様々な心理療法と技法(3)
13	様々な心理療法と技法(4)
14	様々な心理療法と技法(5)
15	様々な心理療法と技法(6)

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義
科目名	基礎医学概論 I			
担当教員	岡野良文			
	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		

1. 講義概要

細胞と組織 呼吸の仕組み 循環の構造の仕組み など

2. 一般目標

生体のさまざまな組織や臓器、器官がどのように協調しながら個体としての人間を形作っているのかを機能と形態を交えながら臨床医学の初心者にもわかりやすく解説する。さらにそれらに関連した臨床上の問題や病気についても理解を深める。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

目で見るからだのメカニズム

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	細胞の特徴と構造
2	消化器を構成する器官
3	肝臓・胆嚢・膵臓の機能と構造
4	消化管・胃・大腸の機能と構造
5	血液の組成と役割
6	呼吸器における内呼吸と外呼吸
7	泌尿器と生殖器の構造と機能
8	心臓の解剖生理
9	循環器系における疾患と病態
10	脳と脊髄の機能と解剖
11	脳の疾患と認知症
12	視覚・聴覚の機能と構造
13	味覚・嗅覚などの感覚器の機能
14	骨・筋肉の組成と働き
15	筋収縮とエネルギー代謝

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義																																
科目名	基礎医学概論 II																																			
担当教員	麻生 裕規雄 他																																			
講義概要 薬物による生体の生理機能の変化と栄養学の基礎について学ぶ 2. 一般目標 薬はどうやって体に効果をもたらすのか、薬の副作用は、なぜ起こるのか、薬はどう使うのがもっとも適切かなど薬理学の基礎知識を身につける。また、食事や食品、その成分である栄養素がどのように生物の中で利用されたり影響しているかを学ぶ栄養学の基礎について学ぶ。 4. 評価方法 筆記試験 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 5. テキスト・参考書等 クイックマスター薬理学 第 2 版 リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 6. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>薬理学の基礎知識</td></tr><tr><td>2</td><td>神経系作用薬</td></tr><tr><td>3</td><td>心臓・血管系作用薬</td></tr><tr><td>4</td><td>呼吸器系作用薬</td></tr><tr><td>5</td><td>消化器系・物質代謝作用薬</td></tr><tr><td>6</td><td>抗感染症薬</td></tr><tr><td>7</td><td>漢方・生物学的製剤・薬物中毒</td></tr><tr><td>8</td><td>高齢社会と栄養・リハビリテーション栄養の重要性</td></tr><tr><td>9</td><td>栄養の基礎</td></tr><tr><td>10</td><td>5 大栄養素の役割</td></tr><tr><td>11</td><td>運動時の栄養</td></tr><tr><td>12</td><td>低栄養者の栄養管理</td></tr><tr><td>13</td><td>摂食・嚥下障害・サルコペニアの栄養療法</td></tr><tr><td>14</td><td>主な疾患の栄養療法</td></tr><tr><td>15</td><td>NST の実際</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	薬理学の基礎知識	2	神経系作用薬	3	心臓・血管系作用薬	4	呼吸器系作用薬	5	消化器系・物質代謝作用薬	6	抗感染症薬	7	漢方・生物学的製剤・薬物中毒	8	高齢社会と栄養・リハビリテーション栄養の重要性	9	栄養の基礎	10	5 大栄養素の役割	11	運動時の栄養	12	低栄養者の栄養管理	13	摂食・嚥下障害・サルコペニアの栄養療法	14	主な疾患の栄養療法	15	NST の実際
コマ	教授内容																																			
1	薬理学の基礎知識																																			
2	神経系作用薬																																			
3	心臓・血管系作用薬																																			
4	呼吸器系作用薬																																			
5	消化器系・物質代謝作用薬																																			
6	抗感染症薬																																			
7	漢方・生物学的製剤・薬物中毒																																			
8	高齢社会と栄養・リハビリテーション栄養の重要性																																			
9	栄養の基礎																																			
10	5 大栄養素の役割																																			
11	運動時の栄養																																			
12	低栄養者の栄養管理																																			
13	摂食・嚥下障害・サルコペニアの栄養療法																																			
14	主な疾患の栄養療法																																			
15	NST の実際																																			

基本情報	2年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義
科目名	基礎医学概論Ⅲ			
担当教員	桑原 宏 他			

1. 講義概要

画像検査の臨床的特徴と局所解剖学の知識をもとにした画像診断の基礎について学ぶ。また赤十字救急法救急員養成講習を受講し、手当の基本と一次救命処置の正しい知識を身につける。

2. 一般目標

放射線医学の基礎知識からリハビリテーションに活かすために PT・OT として知っておくべき X 線、CT、MRI などの画像の診かた、重要疾患の画像所見のポイントについて放射線技師の立場でわかりやすく解説する。また、救急法では、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED の操作、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など救急員として幅広い知識と技術を習得することを目的とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布(画像の診かた)

赤十字救急員養成講習テキスト

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	画像検査(X線・CT・MRI)の基礎知識
2	脳画像読影の基礎知識
3	脳
4	脊柱
5	上肢・下肢
6	内臓
7	練習問題・まとめ
8	赤十字救急法について
9	一次救命処置
10	手当の基本
11	急病・けが・止血
12	きずの手当
13	骨折の手当て
14	搬送・学科試験
15	実技試験

基本情報	2年次	専門基礎分野	1 単位 (40 時間)	授業方法: 講義
科目名	内科学			
担当教員	深田 健治			

1. 講義概要

内科学では疾患の理解に主眼をおき、各系統別に代表的な疾患あるいは注目すべき疾患の病因、病態生理、診断、臨床症状、治療および予後について臨床的立場から解説する。

2. 一般目標

リハビリテーションに必要な代表的な内科疾患について理解を深める。

3. 評価方法

期末試験 80%・小テスト 20%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

内科学 （標準理学療法・作業療法学）

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	内科学診断と治療の実際	12	血液・造血器疾患
2	症候学	13	代謝性疾患総論
3	循環器疾患総論	14	代謝性疾患各論
4	循環器疾患各論	15	内分泌疾患総論
5	呼吸器疾患総論	16	内分泌疾患各論
6	呼吸器疾患各論	17	腎・泌尿器疾患総論
7	消化器疾患総論	18	腎・泌尿器疾患各論
8	消化管疾患各論	19	アレルギー、膠原病、類縁疾患、免疫不全
9	肝胆膵疾患総論	20	感染症
10	肝胆膵疾患各論	21	期末テスト
11	中間まとめ(試験)		

基本情報	1年後期	専門基礎分野	1単位(20時間)	授業方法:講義
科目名	老年学			
担当教員	土生 洋一・岡野 良文			

1. 講義概要

高齢者の医療、福祉、介護などに対するニーズに対応できる知識技術を習得する

2. 一般目標

高齢化社会の進展に伴う疾患の理解に主眼を置き、各系統別に代表的な疾患あるいは注目すべき疾患の病因、病態生理、診断、臨床症状、予防及び治療・予後について臨床的立場より解説する。

3. 教授方法

講義

4. 評価方法

筆記試験 100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5. テキスト・参考書等

老年学（標準理学療法・作業療法学）

6. 授業計画

コマ	教授内容
1	加齢と老化
2	加齢に伴う変化:生理機能
3	加齢に伴う変化:運動機能
4	加齢に伴う変化:精神機能
5	高齢者に特徴的疾患:老年症候群・循環器疾患
6	高齢者に特徴的疾患:呼吸・循環器疾患
7	高齢者に特徴的疾患:骨・運動疾患
8	高齢者に特徴的疾患:神経疾患
9	高齢者に特徴的疾患:内分泌・免疫疾患
10	老年学・東洋医学・漢方

基本情報	2年次	専門基礎分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、VTR
科目名	整形外科科学			
担当教員	七森 和久			

1. 講義概要

整形外科科学は外科系医学のうちでも、骨・関節・筋・靱帯・神経などの運動器疾患および身体姿勢を扱う領域である。本講義では、代表的な運動器疾患の診断と治療について系統的に理解することを目的とし、基礎的知識の習得とその臨床的な応用について教授する。

2. 一般目標

運動器系疾患の病態と臨床像および治療について理解し、適切なリハビリテーションの実践に必要な知識を修得する。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

整形外科科学（標準理学療法・作業療法学）

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	整形外科基礎	17	脊損、骨折総論
2	整形外科基礎	18	骨折総論
3	整形外科基礎 整形外科治療	19	骨折各論
4	整形外科基礎	20	骨折各論
5	整形外科基礎	21	骨折各論
6	整形外科治療法	22	骨折各論
7	炎症性疾患	23	骨折、末梢神経損傷
8	炎症性疾患	24	末梢神経損傷
9	内分泌、代謝疾患	25	熱傷
10	退行性疾患	26	切断
11	先天性疾患	27	関節外傷
12	循環障害	28	腱靱帯
13	骨軟部腫瘍	29	腱靱帯、スポーツ障害
14	神経筋疾患	30	スポーツ障害
15	脊椎疾患	31	テスト
16	脊髄損傷		

基本情報	2年次	専門基礎分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義
科目名	神経内科学・脳外科学			
担当教員	佐藤 智彦			

1. 講義概要

脳の解剖と臨床 脳と意識 意識障害 脳の解剖 画像診断 頭部外傷 脳腫瘍 脳卒中 変性疾患 認知症 など

2. 一般目標

神経症候学及びリハビリテーションの対象となる代表的な中枢神経疾患の病態と診断、治療および予後に重点をおいて教授する。具体的には疾患の理解を深めるとともに個々の障害に対する治療の概略とその治療効果を検証するに適した評価法ができるようになることを目標とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

神経内科学(標準理学療法・作業療法学)

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	脳幹の解剖と病態生理	17	脳挫傷について
2	神経系とその働き	18	脳腫瘍のタイプと臨床症状
3	神経伝導路	19	脳血管系の病態生理と分類
4	大脳辺縁系の解剖と臨床	20	脳梗塞の発生機序
5	大脳高次機能とその障害	21	脳梗塞の臨床診断と治療の原則
6	記憶と認知症	22	脳出血の症状・診断・治療
7	失語症のタイプと症状	23	くも膜下出血の病態・症状・治療
8	構音の病態生理	24	変性疾患の病態と症状
9	嚥下の解剖と病態生理	25	パーキンソン病関連疾患
10	摂食・嚥下訓練と評価	26	認知症のタイプと症状
11	脳神経系検査	27	脊髄小脳変性症の病態と症状
12	ニューロンの構造と臨床	28	筋萎縮性側索硬化症の病態と症状
13	ニューロンの電気活動と評価	29	多発性硬化症の病態と症状
14	脳の保護機構について	30	末梢神経障害のタイプと症状
15	髄液系とその病態	31	テスト
16	頭痛のタイプと治療		

基本情報	2年次	専門基礎分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義
科目名	精神医学			
担当教員	山本 久雄			

1. 講義概要

精神医学では代表的な精神疾患についての原因、病態、診断、治療について教授する。また、患者の精神の問題を多角的に捉えていけるよう、精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握、患者と治療者との関係の考え方について教授する。

2. 一般目標

精神疾患の病態を理解することで障害を持つ患者への理解とそれぞれに適した働きかけについて理解を深める。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

現代臨床精神医学 精神医学(標準理学療法学・作業療法学)

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	精神医学とは	16	統合失調症(1)
2	精神障害の成因と分類	17	統合失調症(2)
3	精神機能の障害と精神症状(1)	18	統合失調症(3)
4	精神機能の障害と精神症状(2)	19	統合失調症(4)・気分障害
5	精神機能の障害と精神症状(3)	20	気分障害
6	精神機能の障害と精神症状(4)	21	気分障害
7	精神障害の診断と評価(1)	22	神経症性障害(2)
8	精神障害の診断と評価(2)	23	神経症性障害(1)
9	精神障害の診断と評価(3)	24	生理的障害および身体的要因に関連した障害・人格の障害
10	脳器質性精神障害(1)	25	人格・行動・性の障害
11	脳器質性精神障害(2)	26	精神遅滞・心理的発達の障害
12	症状性精神障害	27	リエゾン精神医学・心身医学・ライフサイクルにおける精神医学
13	精神作用物質による精神及び行動の障害(2)	28	治療・リハビリテーション(1)
14	精神作用物質による精神及び行動の障害(1)	29	治療・リハビリテーション(2)
15	てんかん	30	精神科保健医療と福祉・リハビリテーション

基本情報	2年次	専門基礎分野	1単位(30 時間)	授業方法:講義
科目名	小児科学			
担当教員	佐藤 圭右・長倉 智和・拜郷 敦彦 他			

1. 講義概要

小児科学では、基本となる小児の正常発達と療育について解説した後、代表的な小児疾患の病態、診断及び治療について講義する。

2. 一般目標

成長、発達段階にある小児の特性を踏まえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解を深める。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

標準理学療法学・作業療法学 小児科学 ー第 4 版ー

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	新生児未熟児疾患の言葉の定義、身体的成熟度の評価、新生児仮死
2	新生児未熟児疾患新生児レメナ、頭蓋内出血、黄疸など
3	呼吸器感染症、免疫・アレルギー、膠原病
4	喘息・アレルギー
5	神経、てんかん、発達障害
6	筋疾患
7	内分泌疾患
8	先天異常 奇形症候群、代謝異常
9	非チアノーゼ型心疾患、チアノーゼ型心疾患、各種不整脈
10	川崎病
11	小児消化器疾患・腎、腸重積、横隔膜ヘルニア、食道閉鎖、停留精巣、陰嚢水腫
12	白血病、Wilms 腫瘍、腎芽腫、血友病、紫斑病
13	睡眠関連病態、心身症、児童虐待など
14	小児科の基本的な診療、薬量など
15	テスト

基本情報	1年次	専門基礎分野	1単位(30 時間)	授業方法:講義
科目名	リハビリテーション医学・障害学			
担当教員	池田 真一・秋好久美子			

1. 講義概要

リハビリテーション医学ではまず、基礎となる学問体系を概説し、次に対象となる脳や脊髄の損傷、神経筋疾患、発達障害、切断や関節リウマチ、内部疾患などに対する診断や治療の進め方を解説する。

2. 一般目標

臨床医学におけるリハビリテーションの役割、障害評価と治療の位置づけと意義を理解する。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

リハビリテーション医学テキスト

標準整形外科学 第 11 版

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	脳機能と脳卒中
2	脳卒中・評価・高次脳機能障害(1)
3	脳卒中・評価・高次脳機能障害(2)
4	呼吸
5	神経筋疾患
6	誤嚥性肺炎、神経筋疾患各論
7	評価
8	神経徴候
9	脊髄損傷(1)
10	脊髄損傷(2)
11	治療学全般
12	義手・義足
13	呼吸器疾患・呼吸リハ
14	呼吸生理・心臓リハビリテーション
15	がんリハビリテーション

基本情報	1年前期	専門基礎分野	1単位(15 時間)	授業方法:講義
科目名	リハビリテーション概論			
担当教員	片岡 晶志			

1. 講義概要

リハビリテーションの歴史と理念及びその仕組みについて学習する。

2. 一般目標

リハビリテーションの定義・歴史から始まり、リハビリテーション分野、障害の分類と実態、リハビリテーションチームの役割、障害受容、各制度上の問題点などについて概説していく。また各論では診断や治療の進め方を理解し、基本的な理学・作業療法について理解を深める。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

リハビリテーション医学テキスト

標準整形外科学-第 11 版-

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	総論
2	運動器の生理
3	機能理解1
4	機能理解2
5	肩・肘の解剖生理運動
6	手・上肢末梢神経
7	股・膝関節の解剖生理運動
8	足・即関節の解剖生理運動
9	代謝性骨疾患
10	RA・感染
11	脊髄の解剖生理運動
12	脊髄損傷
13	保存療法
14	骨折・脱臼・外傷
15	義肢装具・車椅子

基本情報	1年前期	専門基礎分野	2単位(30時間)	授業方法:講義
科目名	保健医療福祉制度論			
担当教員	田嶋 昭二			

1. 講義概要

人々の健康の維持・増進のために必要な健康・医療・福祉の統合といった観点から、その現状・背景・問題点を解説し、専門職の目指すべき方向性や視点を示唆する。

2. 一般目標

保健、医療、福祉の連携システムの概念および従事者の活動と役割について理解する。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉

社会福祉小六法

介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック

新社会福祉士養成講座 12 社会保障

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	社会保障のしくみ
2	地域包括ケアシステム
3	サービス利用の窓口・支援する人・制度
4	援助技術
5	医療・福祉の連携の実際
6	医療サービス(1)
7	医療サービス(2)
8	生活としごと
9	高齢者サービス(1)
10	高齢者サービス(2)
11	障害児・者サービス(1)
12	障害児・者サービス(2)
13	子ども・家庭のために
14	大規模自然災害等の保障
15	まとめ

基本情報	1年前期	専門基礎分野	1単位(15時間)	授業方法:講義
科目名	公衆衛生学			
担当教員	工藤 政信			

1. 講義概要

公衆衛生の基本内容、健康から疾患までの状態に応じた保健活動について理解する。

2. 一般目標

健康指導の指標となる種々の統計値の意味と動向を把握し、生活環境と健康の関わりや関連する社会保険制度、社会福祉制度および諸法令について幅広く理解することを目標とする。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

社会・環境と健康 公衆衛生学

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	公衆衛生の意義と歴史: 歴史は経緯と保健政策の意義、 技術の発展と行政の歴史について
2	人口、保健統計: 静態・動態人口、統計など。死因、出生
3	保健統計、疫学: 保健統計の残り、生命表、疫病統計、疫学手法、因子
4	疫学保健統計: 疫学の残り、保険統計の概要、
5	情報とコミュニケーション: パソコン・ネット接続・サイト・検索の説明
6	衛生行政活動・公衆衛生活動: 行政活動・母子保健・老人保健等
7	環境と健康、生活習慣病: 疾病の疫学、循環器疾患、 メタボリックシンドローム、食生活等
8	生活習慣病、行動科学・学校保健・産業保健

専門分野

基本情報	1年前期	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法:講義																																
科目名	理学療法概論 I																																			
担当教員	宮原 龍司 (実務経験者)		理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 22 年ほどの経験を有す。																																	
1. 講義概要 理学療法の概要を理解し、学習の動機づけを行う。																																				
2. 一般目標 理学療法についてその全体像が把握できるよう総合的、体系的に教授する。将来に対しての明確な目的意識をもたせる。専門科目を学習していく素地を養わせる。自己の洞察力を深める機会を与える。																																				
3. 評価方法 筆記試験 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。																																				
4. テキスト・参考書等 「理学療法概論 第四版」 神陵文庫 2013																																				
5. 授業計画																																				
<table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション、コンセンサスゲーム</td></tr><tr><td>2</td><td>1.理学療法の概念と歴史</td></tr><tr><td>3</td><td>2.理学療法士の法律</td></tr><tr><td>4</td><td>3.理学療法士の関連法規</td></tr><tr><td>5</td><td>4.理学療法の意義と役割</td></tr><tr><td>6</td><td>5.理学療法の対象</td></tr><tr><td>7</td><td>6.理学療法の方法</td></tr><tr><td>8</td><td>7.理学療法の組織 8.理学療法の教育</td></tr><tr><td>9</td><td>9.医療・保健分野の理学療法</td></tr><tr><td>10</td><td>10.地域リハビリテーションと理学療法</td></tr><tr><td>11</td><td>11.医療事故とリスクマネジメント</td></tr><tr><td>12</td><td>12.個人情報の管理と対象者の権利 13.理学療法士を目指す学生に求められるもの</td></tr><tr><td>13</td><td>14.臨床実習の実践</td></tr><tr><td>14</td><td>15.理学療法士と研究</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法概論 I まとめ</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	オリエンテーション、コンセンサスゲーム	2	1.理学療法の概念と歴史	3	2.理学療法士の法律	4	3.理学療法士の関連法規	5	4.理学療法の意義と役割	6	5.理学療法の対象	7	6.理学療法の方法	8	7.理学療法の組織 8.理学療法の教育	9	9.医療・保健分野の理学療法	10	10.地域リハビリテーションと理学療法	11	11.医療事故とリスクマネジメント	12	12.個人情報の管理と対象者の権利 13.理学療法士を目指す学生に求められるもの	13	14.臨床実習の実践	14	15.理学療法士と研究	15	理学療法概論 I まとめ
コマ	教授内容																																			
1	オリエンテーション、コンセンサスゲーム																																			
2	1.理学療法の概念と歴史																																			
3	2.理学療法士の法律																																			
4	3.理学療法士の関連法規																																			
5	4.理学療法の意義と役割																																			
6	5.理学療法の対象																																			
7	6.理学療法の方法																																			
8	7.理学療法の組織 8.理学療法の教育																																			
9	9.医療・保健分野の理学療法																																			
10	10.地域リハビリテーションと理学療法																																			
11	11.医療事故とリスクマネジメント																																			
12	12.個人情報の管理と対象者の権利 13.理学療法士を目指す学生に求められるもの																																			
13	14.臨床実習の実践																																			
14	15.理学療法士と研究																																			
15	理学療法概論 I まとめ																																			

基本情報	3年次	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義・実技																																
科目名	理学療法概論Ⅱ																																			
担当教員	竹村仁 他 外部講師 (実務経験者)	理学療法士として 26 年の臨床経験を有す。身体障害系の実務経験とともに、管理職として後進の指導にあたる。18 年の講師歴を有す。																																		
1. 講義概要 実習に臨むにあたって、必要不可欠の知識・技術を講義する。																																				
2. 一般目標 長期実習に臨む前に万全の準備体制を整えることができる。																																				
3. 評価方法 レポート 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。																																				
4. テキスト・参考書等 配布資料																																				
5. 授業計画																																				
<table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>臨床実習の心構え(SV の立場から) 1</td></tr><tr><td>2</td><td>臨床実習の心構え(SV の立場から) 2</td></tr><tr><td>3</td><td>徒手による治療技術 1</td></tr><tr><td>4</td><td>徒手による治療技術 2</td></tr><tr><td>5</td><td>徒手による治療技術 3</td></tr><tr><td>6</td><td>徒手による治療技術 4</td></tr><tr><td>7</td><td>脳血管障害の評価と治療 1</td></tr><tr><td>8</td><td>脳血管障害の評価と治療 2</td></tr><tr><td>9</td><td>CVA 患者の下肢装具作成 1</td></tr><tr><td>10</td><td>CVA 患者の下肢装具作成 2</td></tr><tr><td>11</td><td>スポーツ整形分野の理学療法 1</td></tr><tr><td>12</td><td>スポーツ整形分野の理学療法 2</td></tr><tr><td>13</td><td>福祉分野の理学療法 1</td></tr><tr><td>14</td><td>福祉分野の理学療法 2</td></tr><tr><td>15</td><td>リスクマネジメント</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	臨床実習の心構え(SV の立場から) 1	2	臨床実習の心構え(SV の立場から) 2	3	徒手による治療技術 1	4	徒手による治療技術 2	5	徒手による治療技術 3	6	徒手による治療技術 4	7	脳血管障害の評価と治療 1	8	脳血管障害の評価と治療 2	9	CVA 患者の下肢装具作成 1	10	CVA 患者の下肢装具作成 2	11	スポーツ整形分野の理学療法 1	12	スポーツ整形分野の理学療法 2	13	福祉分野の理学療法 1	14	福祉分野の理学療法 2	15	リスクマネジメント
コマ	教授内容																																			
1	臨床実習の心構え(SV の立場から) 1																																			
2	臨床実習の心構え(SV の立場から) 2																																			
3	徒手による治療技術 1																																			
4	徒手による治療技術 2																																			
5	徒手による治療技術 3																																			
6	徒手による治療技術 4																																			
7	脳血管障害の評価と治療 1																																			
8	脳血管障害の評価と治療 2																																			
9	CVA 患者の下肢装具作成 1																																			
10	CVA 患者の下肢装具作成 2																																			
11	スポーツ整形分野の理学療法 1																																			
12	スポーツ整形分野の理学療法 2																																			
13	福祉分野の理学療法 1																																			
14	福祉分野の理学療法 2																																			
15	リスクマネジメント																																			

基本情報	2年後期	専門分野	1 単位 (15 時間)	授業方法: 演習
科目名	理学療法研究法			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給 黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
1. 講義概要 研究テーマの設定、研究計画、測定と解析、論文作成と発表を行う。				
2. 一般目標 教員の指導を受けつつ適切な研究の計画を立案して安全に実施し、口頭発表と論文によってまとめられる。				
3. 評価方法 研究計画書 20%・レポート 50%・発表 30% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 「4Steps エクセル統計 第2版」オーエムエス出版、2004 、配布プリント				
5. 授業計画				
	コマ	教授内容		
	1	卒業研究の進め方		
	2	研究デザイン		
	3	文献とテーマ検索方法		
	4	発表手法		
	5	計測機器オリエンテーション①		
	6	統計手法について 1		
	7	統計手法について 2		
	8	計測機器の解説②		
	9	計測機器の解説③		
	10	統計手法		
	11	統計手法		
	12	卒業研究計画の立て方		
	13	卒業研究計画の立案 1		
	14	卒業研究計画の立案 2		
	15	卒業研究計画の立案 3		

基本情報	3年次	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 演習、発表																								
科目名	卒業研究																											
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。																										
	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。																										
	今給 黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。																										
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。																										
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。																										
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。																										
1. 講義概要 研究テーマの設定、研究計画、測定と解析、論文作成と発表を行う。																												
2. 一般目標 教員の指導を受けつつ適切な研究計画にて安全に実施し、口頭発表と論文によってまとめられる。																												
3. 評価方法 研究計画書 20%・レポート 50%・発表 30% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。																												
4. テキスト・参考書等 「4Steps エクセル統計 第2版」オーエムエス出版、2004 、 配布プリント																												
5. 授業計画																												
<table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>卒業研究計画の発表 1</td></tr><tr><td>2</td><td>卒業研究計画の発表 2</td></tr><tr><td>3～22</td><td>卒業研究実施</td></tr><tr><td>23</td><td>まとめ1</td></tr><tr><td>24</td><td>まとめ2</td></tr><tr><td>25</td><td>発表準備1</td></tr><tr><td>26</td><td>発表準備2</td></tr><tr><td>27</td><td>卒業研究発表会における口頭発表 1</td></tr><tr><td>28</td><td>卒業研究発表会における口頭発表 2</td></tr><tr><td>29</td><td>卒業研究論文の提出とまとめ 1</td></tr><tr><td>30</td><td>卒業研究論文の提出とまとめ 2</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	卒業研究計画の発表 1	2	卒業研究計画の発表 2	3～22	卒業研究実施	23	まとめ1	24	まとめ2	25	発表準備1	26	発表準備2	27	卒業研究発表会における口頭発表 1	28	卒業研究発表会における口頭発表 2	29	卒業研究論文の提出とまとめ 1	30	卒業研究論文の提出とまとめ 2
コマ	教授内容																											
1	卒業研究計画の発表 1																											
2	卒業研究計画の発表 2																											
3～22	卒業研究実施																											
23	まとめ1																											
24	まとめ2																											
25	発表準備1																											
26	発表準備2																											
27	卒業研究発表会における口頭発表 1																											
28	卒業研究発表会における口頭発表 2																											
29	卒業研究論文の提出とまとめ 1																											
30	卒業研究論文の提出とまとめ 2																											

基本情報	1 年次	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法: 講義、実習、演習
科目名	理学療法セミナー I			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		

講義概要

医療施設、福祉施設の見学を通し、各施設の業務および役割を理解する。また理学療法士が関わる種々の疾患または障害のある対象者について理解する。

2. 一般目標

理学療法士として必要な知識・技術・態度・習慣を身に着け、医療・保健・福祉における理学療法士の役割を理解し、理学療法的发展に貢献できる人材を育成することを目的とする。また医療施設、福祉施設の見学を通し、各分野における理学療法士の役割、ならびに関連職種との連携の重要性を学ぶ。

3. 評価方法

レポート 100%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	施設見学オリエンテーション
2～3	施設見学
4～5	実習報告会参加(3 年生合同)
6～7	ボランティア参加(夏休み課題)
8～9	検査・測定実技練習(2 年生合同)
10	藤華祭企画準備
11～13	藤華祭
14～15	卒業研究発表会参加

基本情報	2年次	専門分野	2単位(30時間)	授業方法:講義、実習、演習
科目名	理学療法セミナーⅡ			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として15年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として8年の経験を有す。		

講義概要

保健・医療・福祉に携わる職種への理解を深めると共に、職種間の連携のあり方について学ぶ。

2. 一般目標

保健・医療・福祉の現場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解するために必要な概念・制度について学習する。

3. 評価方法

レポート100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5 授業計画

コマ	教授内容
1～2	検査測定実技演習(1年、3年合同)
3	体験入学 企画・準備
4～6	体験入学
7～9	研修旅行
10	藤華祭 企画・準備
11～13	藤華祭
14～15	卒業研究発表会 参加

基本情報	3年次	専門分野	2単位(30時間)	授業方法:講義、実習、演習
科目名	理学療法セミナーⅢ			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として15年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として8年の経験を有す。		

1. 講義概要

人体の構造と機能および心身の発達、各疾患の特性、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念などこれまで学んできた理学療法基礎分野・専門分野について、理学療法学科の専任教員がオムニバス形式で分野ごとに演習と解説、補講を行う。

2. 一般目標

理学療法士の臨床及び国家試験の受験に必要な知識を理解し、修得することを目指す。分野ごとに演習問題・模擬試験などを実施し、学生の理学療法士としての総合的な資質向上を目指す。学生の理解度と到達度を分析しつつ、適切な課題を与えていく。

3. 評価方法

レポート 100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	運動器疾患の理学療法(下肢)
2	CVAの理学療法
3	呼吸器疾患の理学療法
4	力学、エネルギー
5	義肢・装具のチェックポイント
6	物理療法
7	パーキンソン病の理学療法
8	運動器疾患の理学療法(脊椎)
9	循環器疾患の理学療法
10	代謝疾患の理学療法
11	精神医学
12	筋の機能解剖と評価
13	生理学ポイント講義
14	解剖学ポイント講義
15	運動学ポイント講義

基本情報	2 年次	専門分野	2 単位 (60 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	病態運動学			
担当教員	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
1. 講義概要				
病態運動学では、運動学で学んだ基礎的知識をもとに障害を持つ人間の異常運動の分析と問題点の理解を中心に学習していく。具体的にはまず正常運動・動作の分析から始め、分析方法の選択や結果の解釈について解説する。次に異常動作の分析を行うことにより、運動・動作能力の評価、問題点の把握、治療計画への適応について論じる。				
2. 一般目標				
基礎的な臨床動作分析の知識と技術を習得する				
3. 評価方法				
筆記試験 80%・レポート 10%・小テスト 10%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
臨床動作分析(標準理学療法学) 医学書院				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	オリエンテーション	16	動作の価値を決める要素	
2	力学の基礎1	17	疾患別異常動作の特徴1	
3	力学の基礎2	18	疾患別異常動作の特徴2	
4	力学の基礎3	19	疾患別異常動作の特徴3	
5	力学の基礎4	20	疾患別異常動作の特徴4	
6	力学の基礎 まとめ	21	疾患別異常動作の特徴5	
7	基本的動作の観察と分析1	22	疾患別異常動作の特徴6	
8	基本的動作の観察と分析2	23	疾患別異常動作の特徴7	
9	観察と記述1	24	疾患別異常動作の特徴8	
10	観察と記述2	25	疾患別異常動作の特徴9	
11	観察と記述3	26	疾患別異常動作の特徴10	
12	観察と記述4	27	解析機器を用いた動作分析	
13	歩行分析1	28	姿勢の評価とアプローチ1	
14	歩行分析2	29	姿勢の評価とアプローチ2	
15	前期まとめ	30	後期まとめ	

基本情報	3年次	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	理学療法管理学			
担当教員	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
1. 講義概要				
理学療法部門の業務を適正にマネジメントできるように管理についての理解を深め国家試験取得後に現場で活動する医療組織人としての適性を高める事を目的とする。人事管理や業務管理、管理者に求められる能力とリーダーシップ、チームの一員として求められる能力とフォロワーシップ、自己管理と能力開発、学生指導などを学び、障がい者や高齢者など対象者の抱える問題を適切に解決できるようになる。				
2. 一般目標				
①理学療法管理の意義と目的について理解する。				
②チーム医療と理学療法士の役割について理解する。				
③医療・保健・福祉を取り巻く諸制度ならびに職業倫理について理解する。				
3. 評価方法				
筆記試験 80%・レポート 20%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック メジカルビュー				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	オリエンテーション 理学療法管理とは			
2	組織体制と運営			
3	業務管理、部署内の連携			
4	経営管理、人事労務管理			
5	理学療法士の職業倫理・メンタルヘルス			
6	教育体制・キャリア形成			
7	協会活動の活用(1)			
8	協会活動の活用(2)			
9	リーダーシップとマネジメント(1)			
10	リーダーシップとマネジメント(2)			
11	リスクマネジメント(1)			
12	リスクマネジメント(2)			
13	地域の保健・医療・福祉			
14	チーム医療とマネジメント			
15	多職種連携で大切なこと・まとめ			

基本情報	1 年前期	専門分野	1 単位 (45 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	理学療法評価学 I			
担当教員	今給黎 晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
1. 講義概要 理学療法に結び付いた検査・測定を中心に、各種疾患についての評価が行えるように教授する。				
2. 一般目標 ① 評価の目的や流れを理解できる。 ② 各種検査項目の目的・意義を理解できる。 ③ 各種検査測定の手技を実践できる。				
3. 評価方法 筆記試験 85%・実技試験 15% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 理学療法評価法 第3版(神陵文庫) 運動療法のための 機能解剖学 触診技術 上肢 運動療法のための 機能解剖学 触診技術 下肢・体幹				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	オリエンテーション		13	関節可動域測定 肘・前腕・股・膝関節①
2	評価とは、ICFについて		14	関節可動域測定 肘・前腕・股・膝関節②
3	運動方向の確認、触診 肩甲帯・肩甲骨・鎖骨		15	関節可動域測定 足関節・足部・手指・足趾
4	触診 上腕骨・橈骨・尺骨		16	関節可動域測定 頸部・胸腰部
5	触診 骨盤帯・大腿骨		17	反射検査①
6	触診 膝関節周辺・足関節周辺		18	反射検査②
7	形態測定 四肢長①		19	反射検査③
8	形態測定 四肢長②		20	バイタルサイン①
9	形態測定 周径①		21	バイタルサイン②
10	形態測定 周径②		22	実技試験①
11	関節可動域測定とは		23	実技試験②
12	関節可動域測定 肩関節		24	期末試験

基本情報	1年後期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、演習	
科目名	理学療法評価学Ⅱ				
担当教員	今給黎 晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。			
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。			
1. 講義概要					
理学療法に結び付いた検査・測定を中心に、各種疾患についての評価が行えるように教授する。					
2. 一般目標					
① 各種検査項目の目的・意義を理解できる。					
② 各種検査測定の手技を実践できる。					
③ 治療指向的な評価を実践できる。					
3. 評価方法					
筆記試験 70%・実技試験 30%					
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。					
4. テキスト・参考書等					
理学療法評価法 第3版(神陵文庫)					
ベッドサイドの神経の診かた改訂 18 版(南山堂)					
5. 授業計画					
コマ	教授内容		コマ	教授内容	
1	感覚検査①		16	脳神経の診かた④	
2	感覚検査②		17	脳神経の診かた⑤	
3	感覚検査③		18	脳神経の診かた⑥	
4	協調性検査①		19	筋緊張検査①	
5	協調性検査②		20	筋緊張検査②	
6	協調性検査③		21	姿勢反射・反応について①	
7	協調性検査④		22	姿勢反射・反応について②	
8	協調性検査⑤		23	実技練習	
9	疼痛検査①		24	実技練習	
10	疼痛検査②		25	実技練習	
11	感覚・協調性・疼痛 実技試験①		26	実技練習	
12	感覚・協調性・疼痛 実技試験②		27	実技練習	
13	脳神経の診かた①		28	脳神経・筋緊張・姿勢反射実技試験①	
14	脳神経の診かた②		29	脳神経・筋緊張・姿勢反射実技試験②	
15	脳神経の診かた③		30	期末試験	

基本情報	2年前期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、演習
科目名	理学療法評価学Ⅲ			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
1. 講義概要				
理学療法に結び付いた検査・測定を中心に、各種疾患についての評価が行えるように教授する。				
2. 一般目標				
④ 各種検査項目の目的・意義を理解できる。				
⑤ 各種検査測定の手技を実践できる。				
⑥ 治療指向的な評価を実践できる。				
3. 評価方法				
レポート 10%・実技試験 10%・筆記試験 80%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
理学療法評価法 第3版(神陵文庫)				
ベッドサイドの神経の診かた改訂 18 版(南山堂)				
新・徒手筋力検査法				
リハビリテーションにおける評価法ハンドブック				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	講義オリエンテーション、「筋」の評価		16	MMT(股関節)
2	MMT(manual muscle testing)、肩甲帯の MMT		17	MMT(股関節、足関節、足部)
3	MMT(肩甲帯)		18	MMT(足関節、足部)
4	MMT(肩関節)		19	MMT(実技試験)
5	MMT(肩関節)		20	MMT(実技試験)
6	MMT(肩関節)		21	片麻痺機能検査
7	MMT(肩関節)		22	片麻痺機能検査
8	MMT(肩関節)		23	片麻痺機能検査、痛みの検査
9	MMT(肘関節)		24	整形外科的検査
10	MMT(前腕、手関節)		25	評価実技演習(脳血管疾患)
11	MMT(実技試験)		26	評価実技演習(骨関節疾患)
12	MMT(実技試験)		27	MMT(manual muscle testing)体幹
13	MMT(手関節、膝関節)		28	MMT(体幹)
14	MMT(股関節)		29	MMT(手指)
15	MMT(股関節)		30	MMT(手指、足趾)

基本情報	2年後期	専門分野	1単位(45 時間)	授業方法:講義、演習
科目名	理学療法評価学Ⅳ			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		

1. 講義概要

理学療法に結び付いた検査・測定を中心に、各種疾患についての評価が行えるように教授する。

2. 一般目標

- ④ 評価の目的や流れを理解できる。
- ⑤ 各種検査項目の目的・意義を理解できる。
- ⑥ 各種検査測定の手技を実践できる。

3. 評価方法

レポート 10%・筆記試験 90%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

理学療法評価法 第3版(神陵文庫)

ベッドサイドの神経の診かた改訂 18 版(南山堂)

新・徒手筋力検査法

リハビリテーションにおける評価法ハンドブック

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	評価総論(統合と解釈)	13	画像のみかた
2	姿勢の評価(静的姿勢)	14	画像のみかた
3	姿勢の評価(動的姿勢)	15	画像のみかた
4	姿勢の評価(姿勢反射)	16	予後予測
5	バランスの評価(静的バランス)	17	評価について(疾患の定義→検査項目)
6	バランスの評価(動的バランス)	18	(検査項目の検討→統合と解釈→再検討)
7	呼吸、循環、代謝の評価	19	疾患と評価法(中枢神経障害)①
8	呼吸、循環、代謝の評価	20	疾患と評価法(中枢神経障害)②
9	呼吸、循環、代謝の評価	21	疾患と評価法(骨関節系の障害)①
10	高次脳機能検査	22	疾患と評価法(骨関節系の障害)②
11	高次脳機能検査	23	疾患と評価法(呼吸器障害)
12	高次脳機能検査	24	後期試験

基本情報	2年後期	専門分野	1単位(15 時間)	授業方法:講義、演習																		
科目名	臨床推論学 I																					
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。																				
1. 講義概要 ・理学療法では対象者の全体像の把握して QOL を図るため、情報収集、検査・測定等を行い、論理的に思考して解決策を決める「臨床推論」が つねに行われている。臨床実習で難渋するのが、この「臨床推論」である。本講義では「臨床推論」の基本に焦点をあて、用語の理解、検査測定のアセスメント、統合と解釈、ゴール設定、プログラム立案を論理的に行えるようになることを目指す。 2. 一般目標 ・臨床推論に関連する用語を理解する。 ・病態、情報に基づいた評価項目を列挙し、その意義を説明できる。 ・対象者の全体像、障害像を評価結果に基づいて論理的に説明できる。 3. 評価方法 筆記テスト 90%・レポート 10% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 4. テキスト・参考書等 「6 ステップで組み立てる理学療法臨床実習ガイド:臨床推論から症例報告の書き方まで」医学書院 「3 日間で行う理学療法臨床評価王ランニング」南江堂 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>臨床推論学とは</td></tr><tr><td>2</td><td>検査測定結果のアセスメント</td></tr><tr><td>3</td><td>統合と解釈</td></tr><tr><td>4</td><td>ゴール設定</td></tr><tr><td>5</td><td>理学療法プログラムの立案</td></tr><tr><td>6</td><td>ケーススタディ(1)</td></tr><tr><td>7</td><td>ケーススタディ(2)</td></tr><tr><td>8</td><td>まとめ</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	臨床推論学とは	2	検査測定結果のアセスメント	3	統合と解釈	4	ゴール設定	5	理学療法プログラムの立案	6	ケーススタディ(1)	7	ケーススタディ(2)	8	まとめ
コマ	教授内容																					
1	臨床推論学とは																					
2	検査測定結果のアセスメント																					
3	統合と解釈																					
4	ゴール設定																					
5	理学療法プログラムの立案																					
6	ケーススタディ(1)																					
7	ケーススタディ(2)																					
8	まとめ																					

基本情報	2年後期	専門分野	1単位(15時間)	授業方法:講義、演習
科目名	臨床推論学Ⅱ			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として11年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として16年ほどの経験を有す。		
	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として7年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として20年ほどの経験を有す。		
	今給 黎晃 (実務経験者)	理学療法士として5年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として18年ほどの経験を有す。		
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として15年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として8年の経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として14年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として2年の経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として12年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		

1. 講義概要

理学療法を行うにあたり「妥当なプログラムの立案」には多少の経験が必要とする。この講義では比較的イメージしやすい症例を学生に提示し、教員からのアドバイスを加えながら模擬的に理学療法思考過程を体験し、そのプロセスを理解することが目的である。

2. 一般目標

- ・患者の全体像を簡潔に整理し、述べることができる。
- ・各種情報より予後予測を行い、到達目標を具体的に示すことができる。
- ・目標に則した治療方針の提案ができる。

3. 評価方法

小テスト 20%・学生間評価 10%・レポート 70%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

「PT 臨床実習ルートマップ」 メジカルビュー

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	臨床推論学とは 理学療法士のための臨床問題解決法	9	症例 3-①
2	予後予測 他 必要な考え方について	10	症例 3-②
3	症例 1-①	11	症例 3-③
4	症例 1-②	12	症例 4-①
5	症例 1-③	13	症例 4-②
6	症例 2-①	14	症例 4-③
7	症例 2-②	15	まとめ
8	症例 2-③		

基本情報	1 年次	専門分野	2単位 (60 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	運動療法学 I			
担当教員	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
1. 講義概要				
運動療法の基礎的な知識と技術を習得する。				
2. 一般目標				
① 運動療法の概念を理解する。				
② 代表的手技の特徴ならびに障害に対する運動療法の適応を理解する。				
③ 解剖・生理・運動学知識を基に運動の仕組みを説明できる。				
3. 評価方法				
筆記試験 80%・レポート 10%・小テスト 10%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
運動療法 I 神陵文庫				
「運動療法学 各論」医学書院				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	オリエンテーション	16	筋力維持増強運動 3	
2	運動療法の歴史・定義・目的	17	筋力維持増強運動 4	
3	訓練肢位・運動療法機器	18	持久力増強運動 1	
4	運動療法機器2・運動療法の原則	19	持久力増強運動 2	
5	基本的運動 1	20	持久力増強運動 3	
6	基本的運動 2	21	全身調整・リラクゼーション	
7	前期まとめ	22	協調性改善アプローチ 1	
8	中間テスト	23	協調性改善アプローチ 2	
9	テスト解説	24	神経生理学的アプローチ 1	
10	関節可動域運動 1	25	神経生理学的アプローチ 2	
11	関節可動域運動 2	26	神経生理学的アプローチ 3	
12	関節可動域運動 3	27	神経生理学的アプローチ 4	
13	関節可動域運動 4	28	神経生理学的アプローチ 5	
14	筋力維持増強運動 1	29	高齢者の運動療法	
15	筋力維持増強運動 2	30	後期まとめ	

基本情報	2年次	専門分野	1単位(30時間)	授業方法:講義、演習
科目名	運動療法学Ⅱ			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として15年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として8年の経験を有す。		
1. 講義概要				
運動療法学Ⅰを基礎として、これをさらに発展させた内容である。本科目では臨床場面で運動療法を用いることを想定し、対象者の病態、病期に応じた運動療法を選択できることと、その理由を説明できることを目指す。また、適切な運動療法の実施に必要な触診技術の向上と、基本的な運動療法が適切に実施できることを目指す。				
2. 一般目標				
① 病態、病期に応じた運動療法を選択することができる。また、その理由を説明できる。				
② 運動療法の実施に重要な部位を正確に触診できる。				
③ 基本的な運動療法が適切に実施できる。				
3. 評価方法				
筆記試験(50%)、小テスト(40%)、実技テスト(10%)				
※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
「運動療法のための機能解剖学的触診術」、「動作分析 臨床活用講座」:メジカルビュー				
「実践PTノート運動器障害の理学療法」:三輪書店、「理学療法テキスト 運動療法学」:中山書店				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	オリエンテーション、運動療法の基礎			
2	コンディショニングのための手段、触診練習			
3	関節可動域制限に対する運動療法、触診練習			
4	筋機能障害に対する運動療法、触診練習			
5	協調性障害に対する運動療法、触診練習			
6	基本動作能力、歩行能力獲得のための運動療法			
7	全身持久力改善のための運動療法			
8	バランス障害に対する運動療法			
9	がん患者に対する運動療法(1)			
10	がん患者に対する運動療法(2)、触診練習			
11	腎機能障害、熱傷患者に対する運動療法			
12	産科領域、健康増進のための運動療法、触診練習			
13	高齢者の運動療法(1)			
14	高齢者の運動療法(2)			
15	まとめ			

基本情報	2年前期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、演習
科目名	成人神経系理学療法学Ⅰ			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
1. 講義概要				
脳血管障害に対する一般的な理学療法について、目的・意義・理論的背景などを学習する。後期:				
2. 一般目標				
(1) 脳の機能と運動障害の関係についての整理				
(2) 脳の損傷についての知識の獲得				
(3) リハビリテーションを行う意義についての理解				
(4) 一般的なトレーニング技術の獲得				
3. 評価方法				
筆記試験・提出課題(定期試験 80%、課題 20%)				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ、ベッドサイドの神経のみかた				
病気がみえる vol.7 脳と神経、神経内科学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	オリエンテーション・中枢神経疾患総論	16	高次脳機能障害(1)	
2	中枢神経系の機能解剖	17	高次脳機能障害(2)	
3	脳損傷の定義と病態	18	高次脳機能障害(3)	
4	脳損傷回復のメカニズム	19	CVA 片麻痺患者の合併症	
5	脳血管障害のリスク管理とリハビリテーション	20	CT 画像のみかた①	
6	脳血管障害の運動機能障害	21	CT 画像のみかた②	
7	脳血管障害に対する理学療法(1)	22	脳血管障害患者の予後予測	
8	脳血管障害に対する理学療法(2)	23	脳外傷・脳腫瘍について	
9	運動障害に対する評価(1)	24	脳外傷・脳腫瘍の理学療法	
10	運動障害に対する評価(2)	25	大脳基底核の機能解剖・パーキンソン病総論	
11	運動障害に対する評価(3)	26	パーキンソン病の評価(1)	
12	運動療法(1)	27	パーキンソン病の評価(2)	
13	運動療法(2)	28	パーキンソン病の運動療法(1)	
14	運動療法(3)	29	パーキンソン病の運動療法(2)	
15	運動療法(4)、実技演習	30	パーキンソン病の運動療法(3) 実技演習	
			前期試験	

基本情報	2年後期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、演習																																																																
科目名	成人神経系理学療法学Ⅱ																																																																			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。																																																																		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。																																																																		
	宮原 龍司 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 22 年ほどの経験を有す。																																																																		
1. 講義概要 CVA 以外の中枢神経疾患に対する、一般的な理学療法を学習し、その目的・意義・理論的背景などを理解する。また脊髄損傷の概要を学び、脊髄損傷の病態、障害構造を知る。 2. 一般目標 脊髄損傷に対する理学療法介入の原則と方法を理解する。脊髄損傷に対する動作分析から治療計画立案の流れを学ぶ。脊髄損傷の病態生理について理解した上で、治療学の基礎を学ぶ。 また、前期に続き脳損傷による運動障害について、その知識を学びリハビリテーションを行う意義について理解する。 3. 評価方法 筆記試験・小テスト・レポート(定期試験 70%、小テスト 20%、レポート 10%) ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 4. テキスト・参考書等 PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法、理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ ベッドサイドの神経のみかた、病気がみえる vol.7 脳と神経、神経内科学 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>前期試験解説</td><td>16</td><td>協調運動障害の評価①</td></tr><tr><td>2</td><td>オリエンテーション 第 1 章 脊髄損傷の基礎知識</td><td>17</td><td>協調運動障害の評価②</td></tr><tr><td>3</td><td>第 2 章 理学療法評価(1) : 概説</td><td>18</td><td>失調症の運動療法(1)</td></tr><tr><td>4</td><td>第 2 章 理学療法評価(2) : 自律神経障害</td><td>19</td><td>失調症の運動療法(2)</td></tr><tr><td>5</td><td>第 2 章 理学療法評価(3) : ADL 評価</td><td>20</td><td>神経筋疾患の理学療法(1)</td></tr><tr><td>6</td><td>第 2 章 理学療法評価(4) : 動作分析</td><td>21</td><td>神経筋疾患の理学療法(2)</td></tr><tr><td>7</td><td>第 3 章 肺理学療法</td><td>22</td><td>神経筋疾患の理学療法(3)</td></tr><tr><td>8</td><td>第 4 章 車椅子処方と練習</td><td>23</td><td>神経筋疾患の理学療法(4)</td></tr><tr><td>9</td><td>第 5 章 (1) 急性期、回復初期理学療法</td><td>24</td><td>神経筋疾患の理学療法(3)</td></tr><tr><td>10</td><td>第 5 章 理(2) 回復後期理学療法</td><td>25</td><td>神経筋疾患の理学療法(4)</td></tr><tr><td>11</td><td>第 6 章 排尿・尿路管理</td><td>26</td><td>ケーススタディ(1)</td></tr><tr><td>12</td><td>第 8 章 脊損とスポーツ、第 9 章 脊損と自動車運転</td><td>27</td><td>ケーススタディ(2)</td></tr><tr><td>13</td><td>脊髄損傷 まとめ</td><td>28</td><td>ケーススタディ(3)</td></tr><tr><td>14</td><td>小脳の機能解剖</td><td>29</td><td>ケーススタディ(4)</td></tr><tr><td>15</td><td>協調運動障害について</td><td>30</td><td>ケーススタディ(5)</td></tr></table>					コマ	教授内容	コマ	教授内容	1	前期試験解説	16	協調運動障害の評価①	2	オリエンテーション 第 1 章 脊髄損傷の基礎知識	17	協調運動障害の評価②	3	第 2 章 理学療法評価(1) : 概説	18	失調症の運動療法(1)	4	第 2 章 理学療法評価(2) : 自律神経障害	19	失調症の運動療法(2)	5	第 2 章 理学療法評価(3) : ADL 評価	20	神経筋疾患の理学療法(1)	6	第 2 章 理学療法評価(4) : 動作分析	21	神経筋疾患の理学療法(2)	7	第 3 章 肺理学療法	22	神経筋疾患の理学療法(3)	8	第 4 章 車椅子処方と練習	23	神経筋疾患の理学療法(4)	9	第 5 章 (1) 急性期、回復初期理学療法	24	神経筋疾患の理学療法(3)	10	第 5 章 理(2) 回復後期理学療法	25	神経筋疾患の理学療法(4)	11	第 6 章 排尿・尿路管理	26	ケーススタディ(1)	12	第 8 章 脊損とスポーツ、第 9 章 脊損と自動車運転	27	ケーススタディ(2)	13	脊髄損傷 まとめ	28	ケーススタディ(3)	14	小脳の機能解剖	29	ケーススタディ(4)	15	協調運動障害について	30	ケーススタディ(5)
コマ	教授内容	コマ	教授内容																																																																	
1	前期試験解説	16	協調運動障害の評価①																																																																	
2	オリエンテーション 第 1 章 脊髄損傷の基礎知識	17	協調運動障害の評価②																																																																	
3	第 2 章 理学療法評価(1) : 概説	18	失調症の運動療法(1)																																																																	
4	第 2 章 理学療法評価(2) : 自律神経障害	19	失調症の運動療法(2)																																																																	
5	第 2 章 理学療法評価(3) : ADL 評価	20	神経筋疾患の理学療法(1)																																																																	
6	第 2 章 理学療法評価(4) : 動作分析	21	神経筋疾患の理学療法(2)																																																																	
7	第 3 章 肺理学療法	22	神経筋疾患の理学療法(3)																																																																	
8	第 4 章 車椅子処方と練習	23	神経筋疾患の理学療法(4)																																																																	
9	第 5 章 (1) 急性期、回復初期理学療法	24	神経筋疾患の理学療法(3)																																																																	
10	第 5 章 理(2) 回復後期理学療法	25	神経筋疾患の理学療法(4)																																																																	
11	第 6 章 排尿・尿路管理	26	ケーススタディ(1)																																																																	
12	第 8 章 脊損とスポーツ、第 9 章 脊損と自動車運転	27	ケーススタディ(2)																																																																	
13	脊髄損傷 まとめ	28	ケーススタディ(3)																																																																	
14	小脳の機能解剖	29	ケーススタディ(4)																																																																	
15	協調運動障害について	30	ケーススタディ(5)																																																																	

基本情報	2年後期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義・レポート・グループ発表
科目名	小児神経系理学療法学			
担当教員	牧 菜奈 (実務経験者)	理学療法士として 10 年の臨床経験を有す。発達障害領域において理学療法士として豊富な知識と経験を有する。		
	那須 恭子 (実務経験者)	16 年の臨床経験を有す。発達障害領域において理学療法士として豊富な知識と経験を有する。10 年の講師歴あり。		
1. 講義概要 脳性麻痺を主とした小児疾患の障害像を学ぶとともに、運動療法学で習得した基礎知識と技術を用い、理学療法技術の習得を教授する。				
2. 一般目標 正常発達を含めた正常児に関する理解を深めた上で、生活指導の重要性を認識し神経発達学的アプローチの手技ができる。				
3. 評価方法 筆記試験 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 こどもの理学療法 脳性麻痺児 24 時間姿勢ケア				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	オリエンテーション	16	重症心身障がい児	
2	正常発達	17	精神発達遅延	
3	正常発達実技	18	まとめ	
4	正常発達実技	19	疾患別発表	
5	正常発達実技	20	疾患別発表	
6	正常発達実技	21	発表・まとめ・摂食	
7	疾患別	22	摂食・重心	
8	筋ジス・ダウン症候群	23	正常発達 評価と演習①	
9	脳性麻痺	24	正常発達 評価と演習②	
10	脳性麻痺	25	正常発達 評価と演習③	
11	低出生体重児	26	正常発達 評価と演習④	
12	筋ジス・ダウン症候群・低出生児まとめ	27	姿勢反射 評価と演習①	
13	評価と治療	28	姿勢反射 評価と演習②	
14	評価と治療	29	姿勢反射 評価と演習③	
15	2分脊椎	30	姿勢反射 評価と演習④	

基本情報	2年次	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義・演習
科目名	骨・関節系理学療法学			
担当教員	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として7年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として20年ほどの経験を有す。		
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として15年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として8年の経験を有す。		

1. 講義概要

骨折を主とした整形外科疾患の障害像を学ぶとともに、運動療法学で習得した基礎知識と技術を用い、理学療法技術を習得を教授する。

2. 一般目標

临床上多く見られる整形外科疾患の基礎知識を習得し、理学療法の考え方、流れをつかむ。PT評価学や運動療法学Ⅰとともに骨関節系疾患のそれぞれの特徴に応じた運動療法を選択し実践できる。

3. 評価方法

筆記試験 100%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

「運動療法学 各論」医学書院

「運動器障害 理学療法学テキスト」南江堂

「実践PTノート 運動器障害の理学療法」三輪書店

授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	組織再生・修復(1)	16	肩関節周囲炎(1)
2	組織再生・修復(2)	17	肩関節周囲炎(2)
3	骨折と脱臼(1)	18	肩の外傷(1)
4	骨折と脱臼(2)	19	肩の外傷(2)
5	骨折と脱臼(3)	20	膝靱帯損傷と半月板損傷(1)
6	骨折と脱臼(4)	21	膝靱帯損傷と半月板損傷(2)
7	骨折と脱臼(5)	22	膝靱帯損傷と半月板損傷(3)
8	末梢神経損傷(1)	23	捻挫と肉離れ(1)(2)
9	末梢神経損傷(2)	24	関節リウマチ(1)
10	頸部疾患(1)	25	関節リウマチ(2)
11	頸部疾患(2)	26	変形性関節症
12	腰部疾患(1)	27	変形性関節症
13	腰部疾患(2)	28	変形性関節症
14	脊椎手術(1)	29	末梢神経損傷の理学療法
15	脊椎手術(2)	30	側彎症・熱傷・切断

基本情報	2年前期	専門分野	1単位(15 時間)	授業方法:講義
科目名	内部障害系理学療法学 I			
担当教員	西山 幸太郎 (実務経験者)		理学療法士として 17 年の臨床経験を有す。身体障害系の実務経験とともに、管理職として後進の指導にあたる。8 年の講師歴を有す。	
1. 講義概要 生活習慣病や心疾患を主体とした内部障害の障害像を学び、それに対する理学療法を教授する。				
2. 一般目標 内部障害を改善する上で理学療法士として運動療法の目的、運動による代謝の変化、選択されるべき運動種目、運動強度、日常生活上の注意点について、総じて述べるができることができる。				
3. 評価方法 期末試験 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	基礎代謝、心臓の解剖生理			
2	運動耐容能、心電図			
3	虚血性心疾患、心臓弁膜症			
4	心不全、心臓リハビリテーション			
5	評価方法、リスク管理、治療法			
6	三大合併症と足病変			
7	糖尿病の運動療法			
8	心疾患、代謝性疾患患者への2次予防教育			

基本情報	2年前期	専門分野	1単位(30 時間)	授業方法:講義、演習
科目名	内部障害系理学療法学Ⅱ			
担当教員	竹村 仁 (実務経験者)	理学療法士として 26 年の臨床経験を有す。身体障害系の実務経験とともに、管理職として後進の指導にあたる。18 年の講師歴を有す。		
	安藤 真次 (実務経験者)	理学療法士として 20 年の臨床経験を有す。身体障害系の実務経験とともに、管理職として後進の指導にあたる。13 年の講師歴を有す。		
	朝井 政治 (実務経験者)	理学療法士として 23 年の臨床経験を有す。身体障害系の実務経験とともに、管理職として後進の指導にあたる。大学教授として 4 年の指導歴を有す。		
1. 講義概要 生活習慣病や心疾患を主体とした内部障害の障害像を学び、それに対する理学療法を教授する。				
2. 一般目標 内部障害に対する適切な評価を施行し、運動療法を選択・実践できる。				
3. 評価方法 筆記試験 100% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 「呼吸リハビリテーション入門」神陵文庫 「心臓リハビリテーション 知っておくべき Tips」中山書店				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	呼吸リハビリテーション 呼吸リハビリテーションの歴史			
2	呼吸リハビリテーション 慢性閉塞性肺疾患			
3	呼吸リハビリテーション 評価			
4	呼吸リハビリテーション 地域での活動			
5	呼吸リハビリテーション 呼吸リハにおける成否の予測因子			
6	呼吸リハビリテーション コンディショニング 運動療法			
7	心臓リハビリテーション 心臓の解剖および疾患			
8	心臓リハビリテーション 疾患および心電図			
9	心臓リハビリテーションの歴史 運動療法			
10	心臓リハビリテーションの運動療法			
11	内部障害総論			
12	糖尿病の運動療法			
13	内部障害の評価 COPD DM			
14	運動の実際 心疾患(心筋梗塞 心不全)			
15	総括			

基本情報	1 年後期 2 年前期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	物理療法学			
担当教員	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
1. 講義概要				
適切な物理療法が行えるよう、各療法について定義、目的、効果と適応、手技、リスク管理などを中心に教授する。				
2. 一般目標				
各種物理療法に関して、定義・目的・生理学的効果と適応・注意事項及び、禁忌・主義・リスク管理などを把握できる。また、疾患に対して、適切な物理療法が選択でき、実践できる。				
3. 評価方法				
レポート 20%・筆記試験 80%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
物理療法学第5版				
5. 業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	オリエンテーション	16	牽引療法(頸椎)	
2	リスク管理	17	牽引療法(骨盤)	
3	物療の対象となる病態について	18	牽引療法 実習	
4	温熱療法について(生理学)	19	電気刺激療法(総論1)	
5	温熱療法について(各種療法)	20	電気刺激療法(総論2)	
6	温熱療法について 実習	21	電気刺激療法(総論3)	
7	寒冷療法について(生理学)	22	電気刺激療法(各論1)	
8	寒冷療法について(各種療法)	23	電気刺激療法(各論2)	
9	寒冷療法について(実習)	24	電気刺激療法(各論3)	
10	温熱・寒冷の結果まとめ(グループワーク)	25	電気刺激療法(各論4)	
11	水治療法	26	実習1	
12	水治療法 実習	27	実習2	
13	光線療法(総論・各論)	28	実習3	
14	光線療法 実習	29	実習4	
15	まとめ(1)	30	まとめ(2)	

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法: 講義、VTR
科目名	義肢装具学総論			
担当教員	鳥越克志 (実務経験者)	身体障害領域を中心に実務経験を有する。その後、作業療法士専門学校の教員として身体障害領域や評価学を中心に講義を担っている。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
1. 講義概要				
義肢装具に関する基礎知識と適合判定について教授する。				
2. 一般目標				
義肢と装具の種類、構造、機能、制作過程について大まかに把握できる。また、適合判定等について実践できる。				
3. 評価方法				
筆記試験 100%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
「切断と義肢」 医歯薬出版株式会社				
「新編 義肢装具マニュアル」				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	オリエンテーション			
2	切断のリハビリテーション			
3	下腿義足			
4	大腿義足			
5	股・膝義足			
6	義足まとめ			
7	義手総論			
8	手義手・前腕義手			
9	上腕義手			
10	装具			
11	上肢装具			
12	下肢装具			
13	下肢装具・靴型装具			
14	足底装具・膝装具			
15	体幹装具・まとめ			

基本情報	2 年後期	専門分野	2 単位 (45 時間)	授業方法: 講義、演習
科目名	義肢装具学各論			
担当教員	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
1. 講義概要				
義肢装具学総論で学んだ義肢・装具の構造と機能の実際を確認するとともに、義肢と装具の装着訓練、適合と調整の方法や義肢装着前後の理学療法について教授する。				
2. 一般目標				
義肢と装具の種類、構造、機能、制作過程について把握できる。また、適合判定等について実践できる。				
義肢装着前後の理学療法について実践的な知識を習得する。				
3. 評価方法				
筆記試験 100%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
「切断と義肢」医歯薬出版株式会社				
「義肢装具のチェックポイント 第 7 版」 医学書院				
「理学療法学テキスト 義肢学」 中山書店				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	切断と義肢の基礎知識 早期義肢装着法と義足適合の流れ		8	片麻痺患者の歩行・正常歩行について
2	大腿切断・膝離断の基本と義足構造とアライメント		9	下肢装具
3	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造とアライメント		10	下肢装具
4	股離断・片側骨盤切除、足切断の構造とアライメント		11	体幹装具
5	切断原因疾患別にみた 理学療法上の留意点、下肢切断の評価		12	整形疾患の下肢装具
6	下肢切断の機能障害と 義足装着前理学療法		13	上肢装具について
7	義足装着理学療法と応用動作		14	靴型装具・足底板について
			15	シーティングシステムについて

基本情報	1年後期	専門分野	1単位(30 時間)	授業方法:講義、実習
科目名	日常生活活動学			
担当教員	今給黎 晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		

1. 講義概要

日常生活活動の概要を把握するとともに、適切な評価が行えるように教授する。

2. 一般目標

リハビリテーション、理学療法における ADL の意味を理解し、評価の目的や方法について学習する。

3. 評価方法

期末試験 95%・レポート 5%

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

ADL とその周辺

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	ADL とは
2	IADL とは
3	QOL とは
4	ニーズについて
5	ADL 評価
6	ADL 評価
7	ADL 評価
8	ADL 評価
9	QOL 評価
10	QOL 評価
11	ADL 評価発表
12	ADL 評価発表
13	ADL に必要な介助法
14	ADL に必要な介助法
15	まとめ

基本情報	2年後期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、実習
科目名	日常生活活動学演習			
担当教員	今給黎 晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
1. 講義概要 日常生活活動における適切な評価および指導が行えるよう、応用的事項について教授する。				
2. 一般目標 ADLがどのような能力、機能によって構成されるかを理解し、障害によって活動にどのような影響があるかを考える。その上で、それぞれの疾患における活動制限の特徴を理解し、具体的なアプローチ方法について実践できる。				
3. 評価方法 期末試験 60%・レポート 40% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等 ADLとその周辺				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	活動の構成要素	16	CVAの入浴動作	
2	活動の構成要素	17	Parkinson 病の基本動作、歩行	
3	活動の分解	18	Parkinson 病の応用動作	
4	活動の分解	19	ALS	
5	活動の分解	20	RA	
6	活動を構成する機能と能力	21	切断	
7	活動を構成する機能と能力	22	COPD	
8	活動を構成する機能と能力	23	高次脳機能障害	
9	活動における各能力の結びつき	24	疾患別介助法(寝返り)	
10	活動における各能力の結びつき	25	疾患別介助法(立ち上がり)	
11	活動に必要な心理	26	疾患別介助法(起き上がり)	
12	活動に必要な心理	27	疾患別介助法(移乗)	
13	活動の際の脳の働き	28	疾患別介助法(移動)	
14	CVAの歩行	29	参加から考える生活機能	
15	CVAの基本動作・更衣動作	30	参加から考える生活機能	

基本情報	2年後期	専門分野	1 単位 (15 時間)	授業方法:講義
科目名	地域理学療法学			
担当教員	今給黎 晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	浜崎 満治 (実務経験者)	理学療法士として 37 年の臨床経験を有す。長年にわたり地域リハビリテーションに関わるとともに、管理職として後進の指導にあたる。18 年の講師歴を有す。		
1. 講義概要				
地域リハビリテーション活動に関する幅広い取り組みと理学療法士の役割について学習する。				
2. 一般目標				
地域リハビリテーション活動について理学療法士の立場から理解を深め、理学療法士の地域での活動や役割について考えることを目標とする				
3. 評価方法				
期末試験 100%				
※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
配布プリント				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	地域での理学療法士の活動			
2	地域資源について			
3	地域リハビリテーションとは			
4	特別養護老人ホームの理学療法			
5	介護保険制度			
6	NPO法人の活動について			
7	障害者福祉の理学療法			
8	障害者の生活			

基本情報	1年次	専門分野	1単位(30時間)	授業方法:講義
科目名	生活環境学			
担当教員	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として12年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		

1. 講義概要

人を取り巻く環境について理解し、リハビリテーションにおける生活環境を評価およびデザイン出来るよう学習する

2. 一般目標

生活環境とは何かを理解した上で、社会が備えるべき環境および患者を取り巻く生活環境の評価とQOLについての確かな情報を得ることで、どのように関わっていくべきかを述べることができる。

3. 評価方法

期末試験 80%・レポート 20%

※100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

生活環境学テキスト 第2版

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	生活環境とは
2	住居とは、障害者を取り巻く4つの環境
3	環境調査
4	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて
5	物理的環境、経済的環境、制度的環境、人的環境
6	部位別住宅改修のポイント
7	スロープ、手すり
8	浴室、トイレ、階段
9	福祉用具について
10	福祉用具について
11	環境調査(校内)
12	〃
13	大分県介護研修センター見学
14	〃
15	まとめ

基本情報	1 年次	専門分野	1 単位 (40 時間)	授業方法:実習
科目名	見学実習			
担当教員	福田 旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川 泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給 黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林 貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂 敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原 真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要 理学療法士として臨床にできるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。見学実習では、現場の理学療法士の業務に触れ、患者への対応、評価・治療、記録・報告、他スタッフとの関わりなどを学んでもらう。				
2. 一般目標 病院・施設の機能について理解し、理学療法士の業務とその範囲、患者・利用者とののかかわり方、多職種との連携の重要性について把握する。				
3. 行動目標 ・ 挨拶をはじめとして、対象者・職員に対する適切な礼儀を示すことができる。 ・ 医療人としてふさわしい身だしなみ・態度がとれる。 ・ 報告・連絡・相談の重要性を理解し、実践することができる。 ・ 施設の機能について理解し、その中での理学療法士の役割について理解できる。 ・ 情報収集の重要性を理解し、障がいや社会的な問題を知ることができる。 ・ 理学療法と関連する専門職との連携について知ることができる。				
4. 評価方法 実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等 臨床実習マニュアル				

基本情報	2年次	専門分野	2単位(80 時間)	授業方法:実習
科目名	検査・測定実習			
担当教員	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
理学療法士として臨床にできるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。検査・測定実習は学内で身につけた検査・測定の技術について、臨床現場での活用・応用をとおして、体験することで知識を深め、技術を高めることを目的とする。				
2. 一般目標				
実際の対象者に対して検査測定を監視下で実践できる。また検査測定や情報収集に必要なコミュニケーションスキルを理解することができる。				
3. 行動目標				
- 見学実習での行動目標を達成できる。 - オリエンテーションができる - 安全に配慮した環境で実施できる。 - 検査器具を正しく使用することができる。 - 正しく判定できる。 - それぞれの検査・測定の意義について説明できる。				
4. 評価方法				
実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等				
臨床実習マニュアル				

基本情報	2年次	専門分野	3単位(120 時間)	授業方法:実習
科目名	評価実習			
担当教員	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
理学療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。評価実習は、理学療法評価を通して対象者の障害構造を把握し、目標設定、プログラム立案へとつながる思考過程を実習指導者の元で経験する。				
2. 一般目標				
情報収集・検査測定より得られた結果をもとに対象者の問題点を把握することができ、対象者のニーズに沿った目標の設定ができる。				
3. 行動目標				
- 検査測定実習の行動目標を達成できる。 - ICFを活用し情報を整理することができる。 - 情報を関連付けることができる。 - 対象者の抱える問題点を見つけることができる。 - 目標を設定することができる。 - 問題点に対する解決策を提案することができる。 - プログラムの根拠を示すことができる。				
4. 評価方法				
実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等				
臨床実習マニュアル				

基本情報	3年次	専門分野	8単位(320 時間)	授業方法:実習
科目名	総合臨床実習実習 I			
担当教員	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
理学療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。総合臨床実習 I は、これまでの実習や講義により身につけた知識・技術を臨床現場での実践を通して、対象者に提供できる水準のものへと高めることを目的とする。				
2. 一般目標				
理学療法プロセスについて理解することができる。また監視下において実践することができる。				
3. 行動目標				
- 評価実習の行動目標を達成することができる。 - 対象者の変化について把握できる。 - 対象者の変化について理由を示すことができる。 - プログラムの変更ができる。 - 対象者の変化に対応した目標の再設定ができる。 - 対象者の今後の課題について示すことができる。				
4. 評価方法				
実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等				
臨床実習マニュアル				

基本情報	3年次	専門分野	8単位(320 時間)	授業方法:実習
科目名	総合臨床実習実習Ⅱ			
担当教員	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要 理学療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。総合臨床実習Ⅱは、これまでの実習や講義により身につけた知識・技術を臨床現場での実践を通して、対象者に提供できる水準のものへと高めることを目的とする。 2. 一般目標 理学療法プロセスについて理解することができる。また監視下において実践することができる。 3. 行動目標 - 評価実習の行動目標を達成することができる。 - 対象者の変化について把握できる。 - 対象者の変化について理由を示すことができる。 - プログラムの変更ができる。 - 対象者の変化に対応した目標の再設定ができる。 - 対象者の今後の課題について示すことができる。 4. 評価方法 実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 5. テキスト・参考書等 臨床実習マニュアル				

基本情報	3年次	専門分野	1単位(40 時間)	授業方法:実習
科目名	地域実習			
担当教員	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	市川泰朗 (実務経験者)	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	今給黎晃 (実務経験者)	理学療法士として 5 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 18 年ほどの経験を有す。		
	林貴紀 (実務経験者)	理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。		
	濱砂敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	藤原真実 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。		
	実習指導者:実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 講義概要 理学療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。近年ニーズが高い訪問リハビリ、通所リハビリについて知見を深め、経験を重ねることを目的とする。				
2. 一般目標 地域における理学療法の役割について把握し、生活を支援していくために必要な知識技術を理解することができる。				
3. 行動目標 ・ 見学実習の行動目標を達成できる。 ・ 利用者・家族の生活特性について理解できる。 ・ 各事業所で提供しているサービス内容の特徴を理解できる。 ・ 地域における理学療法ニーズを理解できる。				
4. 評価方法 実習指導報告書 60%、デイリーノート 10%、OSCE(実習前・後)30% ※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
5. テキスト・参考書等 臨床実習マニュアル				

藤華医療技術専門学校
理学療法学科

SYLLABUS

2021 年(21 期生)

発行者 藤華医療技術専門学校 リハビリ学館

〒879-7125 大分県豊後大野市三重町内田 2706-1

TEL (0974) 22-3800 FAX (0974) 26-4272